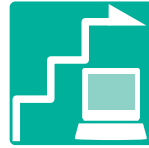


パソコンの使い方が、さらに広がる
パソコン機能ガイド



このパソコンに取り付けることができる

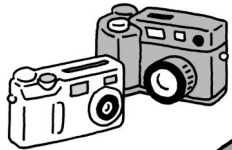
周辺機器

周辺機器の取り付けの際には、このパソコンで使えるものが確認してください。また、取り付け手順については、周辺機器のマニュアルやこのマニュアルをお読みください。

デジタルカメラ

ホームページや年賀状に使う写真を撮るならデジタルカメラが便利。撮った写真はパソコンに取り込んで、保存や加工ができます。パソコンへのデータの取り込み方は、ケーブルやメモリーカードなど、機種によっていろいろな方法があるので、あらかじめ確認しておきましょう。

- USBコネクタ
- PCカードスロット

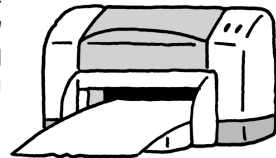


周辺機器の各コネクタへの取り付け方は、PART1、2をご覧ください。

プリンタ

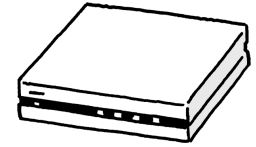
デジカメで撮った写真やインターネットで見つけた情報を印刷したいときにはプリンタ。現在主流のインクジェットプリンタは種類も多く、写真画質や高速な印刷など用途に応じて選べます。このパソコンではUSB対応のプリンタが使えます。

- USBコネクタ



ADSLモデム / CATVモデム

ブロードバンドで快適なインターネットを楽しみたいときは、ADSLやケーブルテレビなどのインターネットサービスを利用しましょう。ADSLモデムやCATVモデムはLANコネクタに接続します。



ADSL/CATV業者によっては、指定されたモデム以外使用できない場合があります。詳しくはADSL/CATV業者にお問い合わせください。

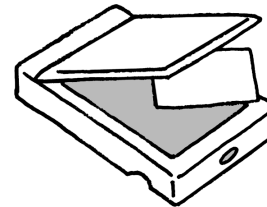
ADSL/CATVモデムにはUSBコネクタに取り付けるものもあります。

- LAN(ローカルエリアネットワーク)、→USBコネクタ

イメージスキャナ

パソコンに絵や写真を取り込むにはイメージスキャナ。取り込んだ絵や写真はパソコンで加工して、ホームページや年賀状などに活用できます。接続が簡単なUSB対応のものがおすすめです。

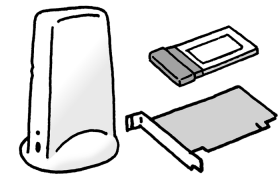
- USBコネクタ



ワイヤレスLAN

家族で複数のパソコンを持っているときなど、ネットワークを作ればデータのやりとりやプリンタの共有ができます。ワイヤレスLANならば、パソコンにケーブルを接続しなくても通信ができるので、パソコンを持って部屋を移動してもネットワークが利用できます。

- LAN(ローカルエリアネットワーク)



デジタルビデオカメラ

撮影した映像をパソコンに取り込んで編集し、オリジナルのムービーが作れます。できあがったムービーはDVD-RやCD-Rに書き込んで、友達に見せることもできます。デジタルビデオカメラはIEEE1394コネクタに接続します。



- IEEE1394コネクタ

マウス

マウスを使えば、パソコンの操作をより快適に行うことができます。マウスはUSBコネクタに接続します。

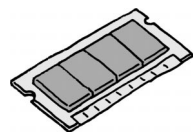
→USBコネクタ



増設メモリ

メモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、容量の大きなデータをより高速に扱うことができますようになります。

→メモリスロット



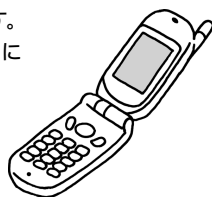
携帯電話 / PHS

携帯電話やPHSを使ってインターネットやメールを利用できます。携帯電話やPHSは別売の接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続します。

接続に使うケーブルはお使いの携帯電話/PHSによって異なります。

→携帯電話 / PHS接続機能

→USBコネクタ



パソコンの機能や周辺機器でできる

パソコン活用例

ここでは、このパソコンの機能や周辺機器でできる、便利な使い方を紹介しています。

TV電話をする

USBカメラとヘッドホンマイクやスタンドマイクを取り付けて、インターネット経由でTV電話を楽しむことができます。



USBカメラについて

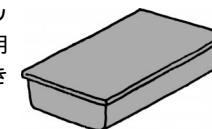
→PART2の「USBコネクタ」-「USBカメラ」

ヘッドホンマイクを接続する

→PART2の「サウンド入出力端子」-「ヘッドホンマイク」

外出先で使用する

このパソコンは、コンセントがない場所でもバッテリーのみで使用でき、外出先でもパソコンを使用することができます。バッテリーで使用できる時間は限られていますが、省電力機能を活用して消費電力を抑えれば、より長い時間、使用することができます。



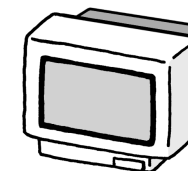
バッテリーパックについて →PART1の「バッテリー」

消費電力を抑える →PART1の「省電力機能」

テレビ画面でDVDを見る




パソコンにテレビを接続して、パソコンで再生しているDVD-Videoをテレビの大画面で楽しむことができます。

TVに接続する →PART2の「外部映像出力端子」



表記について

記号

 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼びかた

LaVie C	LC950、LC900、LC700、LC500、LG20SS、LG18SS、LG15SS を指します。
LaVie T	LT700、LT500、LG20SE、LG18SE、LG15SE を指します。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されているモデルです。
DVD-R/RWモデル	DVD-R/RWドライブが搭載されているモデルです。
DVD-RAM/R/RWモデル	DVD-RAM/R/RWドライブが搭載されているモデルです。
2.4GHzワイヤレスLANモデル	2.4GHzワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルです。

: LaVie Gシリーズの製品です。本文中の記載は、上記のモデル名で説明しています。

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

記載内容

- ・本文中に記載されているCD/DVDドライブは、DVD-RAM/R/RWドライブ、DVD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブを指します。
- ・本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。
- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアなどの正式名称

Windows、 Windows XP	次のいずれかを指します。 Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
Outlook	Microsoft® Outlook®
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
VideoStudio	Ulead® VideoStudio® 6 SE Basic
iモード	i-mode、アイモード
PCGATE Personal	PCGATE Personal Ver1.2
WinDVD 4	InterVideo® WinDVD® 4 for NEC
Norton AntiVirus	Norton AntiVirus™ 2002
BeatJam	BeatJam for NEC

このマニュアルに出てくる基本的な操作

キーボードでの操作

キーボードでの操作は、【 】で囲んで記載しています。

記載例	意味
【F2】を押す	キーボードの[F2]を押すことを表しています。
【Ctrl】+【Alt】+【Del】	Ctrl と Alt を押しながら同時に Del/SysRq を押すことを表しています。

「スタート」ボタンからの操作

Windowsの「スタート」ボタンから行う操作は、「 」で囲んで記載しています。

記載例	意味
「スタート」すべてのプログラム」「アクセサリ」「システムツール」「システムの復元」をクリックする	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを表しています。

「デバイス マネージャ」の開きかた

次のようにするとデバイス マネージャを開くことができます。

- 1 「スタート」「コントロールパネル」をクリックする
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックする
「パフォーマンスとメンテナンス」が表示されます。
- 3 「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックする
- 5 「デバイス マネージャ」をクリックする
「デバイス マネージャ」が表示されます。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行いませんので、必ずご購入元にご相談ください。

本製品を日本で使用する場合は必ず日本国モードでご使用下さい。他国モードをご使用になると電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります(初期値は日本になっています)。

対象機種	認証番号
LaVie C	A02-0317JP
LaVie T	

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

このパソコンには、レーザーに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD/DVDドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windows は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROMは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Ulead、VideoStudioは、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。

Intel、インテル、Pentium、SpeedStepはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

VERITAS RecordNowは、米国VERITAS Software Corp.の米国における登録商標です。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

「i-mode / アイモード」, 「DoPa」は(株)NTTドコモの登録商標です。

SmartGallery、PCGATEは、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴは、Symantec corporationの登録商標であり、各製品名はSymantec corporationの商標または登録商標です。

InterVideo、InterVideoロゴ、WinDVDはInterVideo, Inc.の登録商標です。

「BeatJam」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

Bluetooth™はその商標権者が所有しており、NECはライセンスに基づき使用しております。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC CustomTechnica,Ltd. 2002

日本電気株式会社、NECカスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

* 1 : NEC Corporation, NEC CustomTechnica, Ltd.

このパソコンの機能	1
本体各部の名称	2
LaVie C	2
LaVie T	5
NXパッド	8
名称と役割	8
スクロールボタンを使う	8
キーボード	10
キーの名称	10
キーの使い方	11
ボタン/スイッチ	13
ワンタッチスタートボタン	13
CD/DVDドライブ	15
使用できるディスク	15
CD/DVDドライブを使用するときの注意	15
ディスクのセットのしかたと取り出し方	16
音楽CDやDVD-Videoディスクを再生する	18
CD-RやCD-RWにデータを書き込む	19
DVD-RやDVD-RWにデータを書き込む	19
DVD-RAMにデータを書き込む	20
他のDVDプレーヤーでメディアを読み込むときの注意	22
フロッピーディスクドライブ	23
使用できるディスク	23
フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外し方	23
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方	24
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	25
メディア用ポケット	26
メディア用ポケットで使える機器	26
メディア用ポケット対応機器の取り付け方と取り外し方	27
「SDメモリーカード」、「メモリースティック」を使う	28
液晶ディスプレイ	30
画面の明るさを調節する	30
便利な表示機能	30
バッテリー	32
バッテリーでパソコンを使う	32

バッテリーを充電する	34
バッテリーリフレッシュ	35
バッテリーパックを交換する	37
バッテリーパックのリサイクルについて	39
省電力機能	40
省電力機能について	40
省電力機能を利用するときの注意	41
省電力状態にする	42
省電力状態から復帰する	43
省電力機能の設定をする	44
LAN(ローカルエリアネットワーク)	47
LANコネクタを使ってできること	47
LANケーブルを接続する	47
ネットワークの設定	48
LAN使用上の注意	49
2.4GHzワイヤレスLAN	50
ワイヤレス機器を安全にお使いいただくために	50
2.4GHzワイヤレスLAN機能の紹介	50
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフ	52
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた	53
2.4GHzワイヤレスLAN機能の設定を行う	53
モデム	54
電話回線に接続する	54
モデムを使う	55
モデムを使用するときの注意	56
携帯電話 / PHS接続機能	57
携帯電話またはPHSで通信する	57
いろいろなデータ通信を行う	59
サウンド機能	60
音量を調節する	60
音楽CDからのデジタル出力設定	60

パソコンにつなぐ	61
周辺機器を使用するときのポイント	62
周辺機器を選ぶときのポイント	62
周辺機器をはじめて接続するときのポイント	63
周辺機器の取り付け/取り外しのポイント	65
USBコネクタ	66
USBコネクタについて	66
USB対応機器の取り付け方と取り外し方	67
USBカメラ	68
IEEE1394コネクタ	69
IEEE1394コネクタについて	69
IEEE1394対応機器の取り付け方と取り外し方	69
PCカードスロット	71
PCカードのセットのしかたと取り出し方	71
PCカードを使用するときの注意	72
サウンド入出力端子	73
ヘッドホン/オーディオ出力端子	73
外部マイクロフォン端子	74
ヘッドホンマイク	74
外部映像出力端子	75
外部CRT用コネクタ	75
S映像出力端子	76
表示するディスプレイを切り替える	77
複数のディスプレイに同時表示する	77
メモリスロット	78
このパソコンで使える増設RAMボード	78
増設RAMボードを取り扱うときの注意	78
増設RAMボードの取り付け方と取り外し方	78

付 録	83
パソコンやデータを守る	84
パスワード	84
盗難防止用ロック	85
ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止	85
BIOSセットアップユーティリティ	86

BIOSセットアップユーティリティの使い方	86
購入時の値に戻す	86
本体機能一覧	88
LC950 / LC900	88
LC700 / LC500	90
LT700 / LT500	92
LG20SS / LG18SS / LG15SS	95
LG20SE / LG18SE / LG15SE	98
通信機能一覧	102
内蔵FAXモデム	102
携帯電話 / PHS接続機能	104
内蔵LAN	105
2.4GHzワイヤレスLAN	105

索引	107
----------	-----

P A R T

1

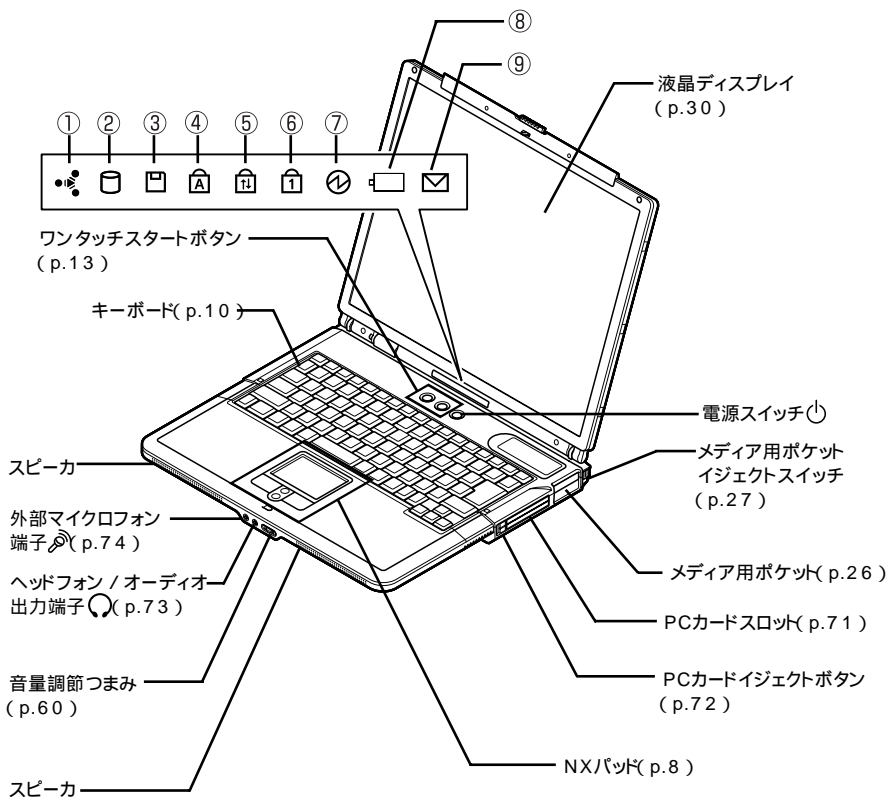
このパソコンの機能

本体各部の名称

お使いのモデルによって、各部の位置や形状が多少異なる場合があります。

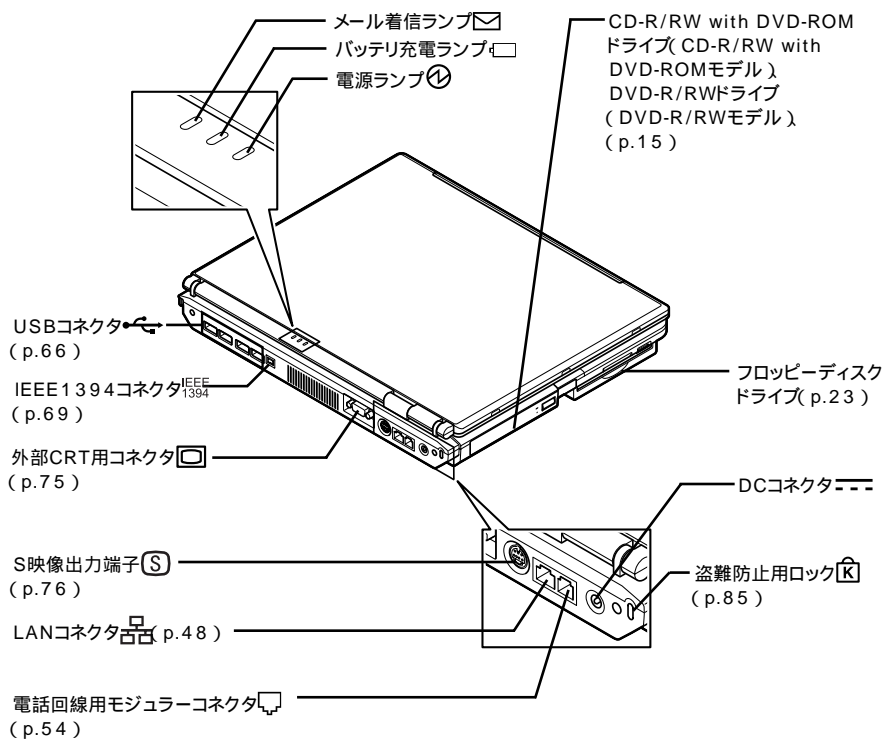
LaVie C

本体前面 / 右側面

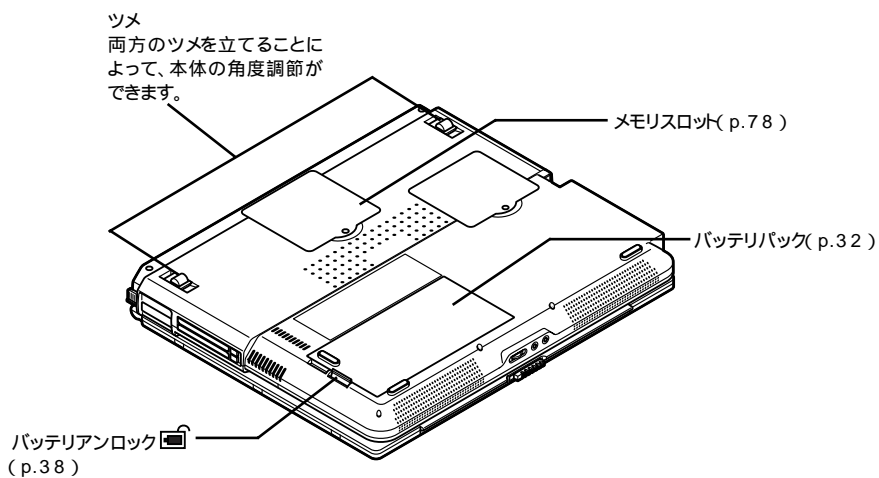


①	ワイヤレスランプ (2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ)	⑥	ニューメリックロックキーランプ
②	アクセスランプ	⑦	電源ランプ
③	フロッピーディスクアクセスランプ	⑧	バッテリー充電ランプ
④	キャップスロックキーランプ	⑨	メール着信ランプ
⑤	スクロールロックキーランプ		

本体背面 / 左側面

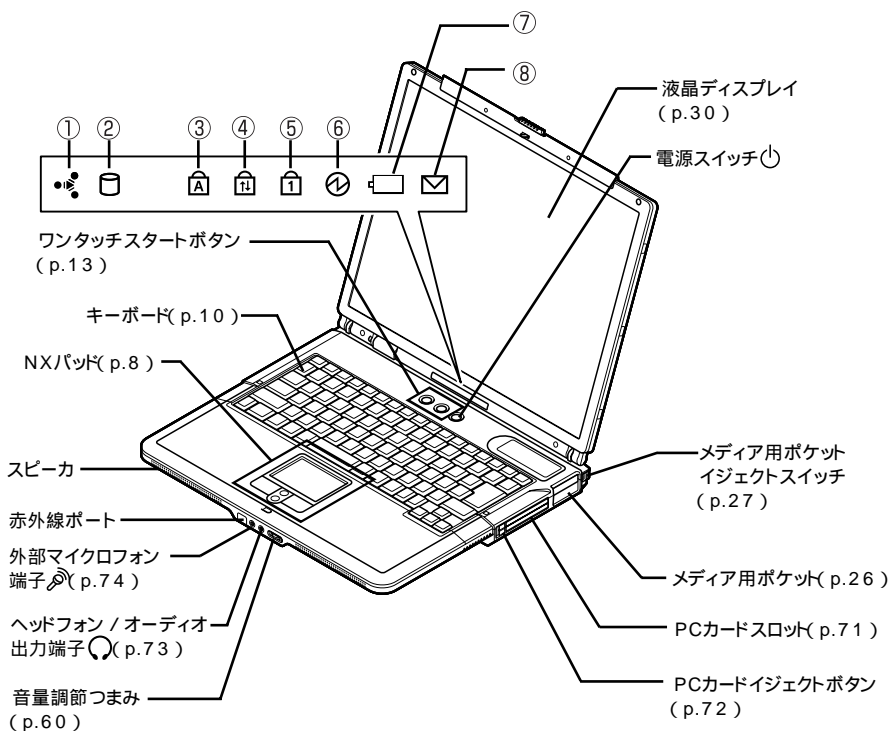


本体底面



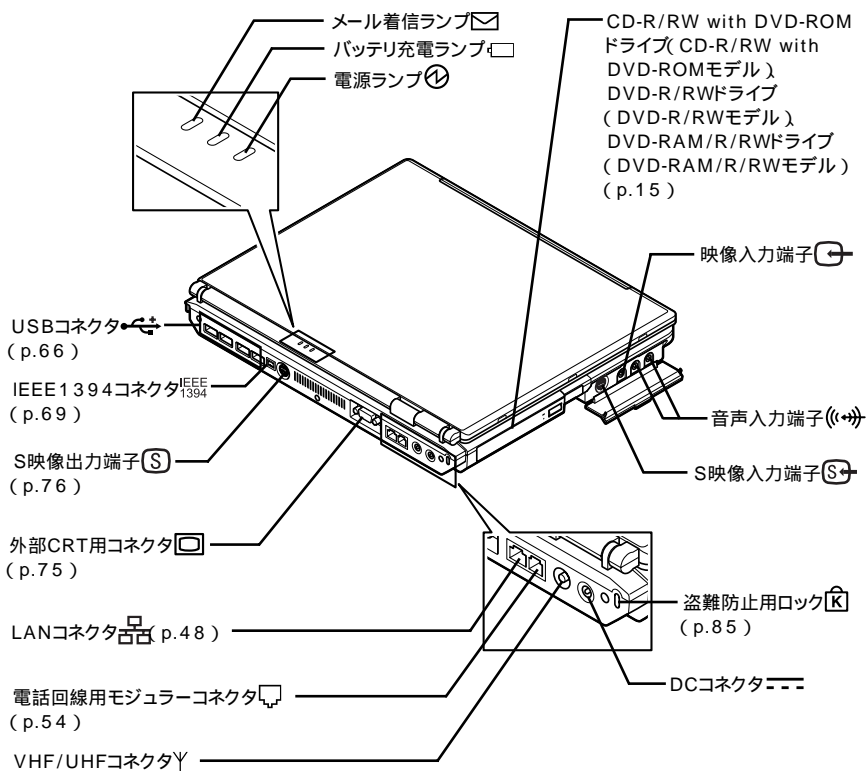
LaVie T

本体前面 / 右側面



①	ワイヤスランプ (2.4GHzワイヤレスLANモデルのみ)	⑤	ニューメリックロックキーランプ
②	アクセスランプ	⑥	電源ランプ
③	キャップスロックキーランプ	⑦	バッテリー充電ランプ
④	スクロールロックキーランプ	⑧	メール着信ランプ

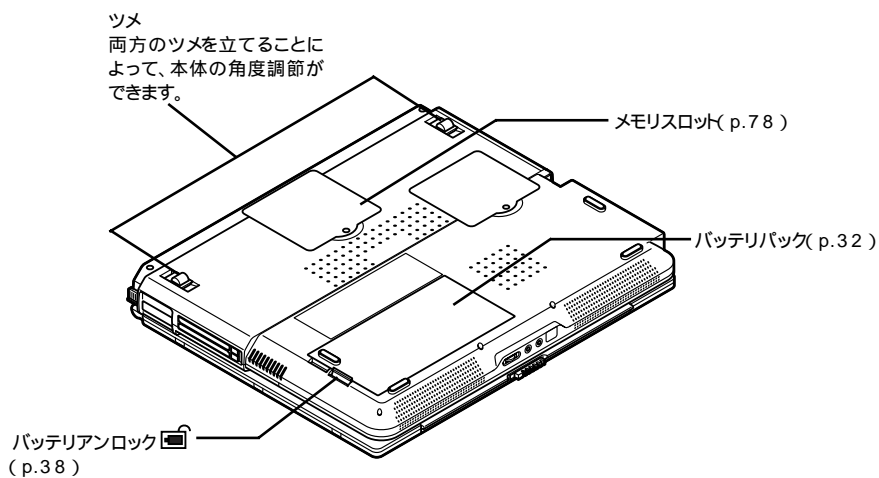
本体背面 / 左側面



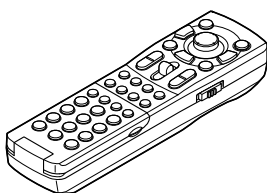
チェック

S映像入力端子 (S+) はS映像出力端子 (S) とコネクタの向きが異なります。接続の際にはケーブルとコネクタの形状を確認して接続してください。

本体底面



リモコン

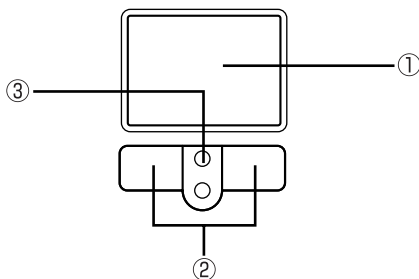


リモコンについて詳しくは、添付の『リモコン取扱説明書』をご覧ください。

NXパッド



省スペースで使用している場合には、NXパッドを使うと便利です。

名称と役割



番号	名称	機能
①	パッド	ここで指をすべらせて、ポインタの移動などを行います。
②	クリックボタン	左右2つのボタンがあります。これらのボタンで操作の確定などを行います。
③	スクロールボタン	このボタンを押すことで、画面をスクロールさせることができます。



- ・NXパッドの使い方について  『ばそガイド』『こんなときの操作集』『NXパッド』『NXパッドの使いかた』
- ・NXパッドをより使いやすく設定する  『ばそガイド』『パソコンの設定』『マウス、パッドの設定』『NXパッドの設定』

スクロールボタンを使う

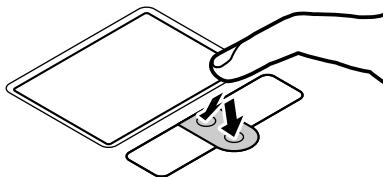
スクロールボタンを使うと、ウィンドウの表示内容を上下方向にスクロールしたり、拡大縮小します。



- ・スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションでは使えません。
- ・ズーム機能は表示内容を拡大縮小する機能があるアプリケーションで使えます。
- ・アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なることがあります。

画面を上下方向にスクロールさせる

- 1 上下スクロールバーがあるウィンドウをクリックする
- 2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す
パッド側を押すと画面が上に、手前側を押すと画面が下にスクロールします。
スクロールボタンを押したままにすると、画面を連続してスクロールできます。

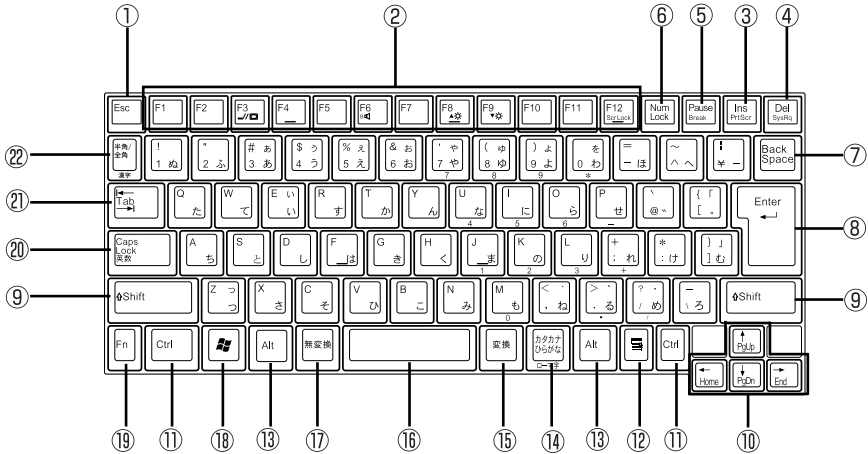


ズーム機能を使う

- 1 表示内容を拡大または縮小したいウィンドウにポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す
パッド側を押すと画面の表示が拡大され、手前側を押すと縮小されます。

キーボード

キーの名称



- ① 【Esc】: エスケープキー
- ② 【F1】~【F12】: ファンクションキー
- ③ 【Ins】: インサートキー
- ④ 【Del】: デリートキー
- ⑤ 【Pause】: ポーズキー
- ⑥ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑦ 【Back Space】: バックスペースキー
- ⑧ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑨ 【Shift】: シフトキー
- ⑩ 【 ⌘ ⌘ ⌘ 】: カーソル移動キー
- ⑪ 【Ctrl】: コントロールキー
- ⑫ 【 🗄️ 】: アプリケーションキー
- ⑬ 【Alt】: オルトキー
- ⑭ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑮ 【変換】: 変換キー
- ⑯ スペースキー
- ⑰ 【無変換】: 無変換キー
- ⑱ 【 🪟 】: Windowsキー
- ⑲ 【Fn】: エフエヌキー
- ⑳ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉑ 【Tab】: タブキー
- ㉒ 【半角/全角】: 半角/全角キー

キーの使い方

特殊なキーを使う

キー操作	説明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ(Ⓝ)が点灯し、キー前面に黄色で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ(Ⓝ)が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角/全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン/オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.12)。
【☰】	右クリックするのと同じ機能があります。
【☰】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【☰】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【☰】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【☰】+【M】	【☰】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【☰】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【☰】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【☰】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【☰】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせて、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F2】	ワイヤレス機能のオン / オフ()	2.4GHzワイヤレスLANを使用する / 使用しないを切り替えます。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え( / )	外部ディスプレイが接続されているとき、表示するディスプレイを切り替えます(p.77)。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮(ディスプレイストレッチ機能)	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する / しないを切り替えます(p.30)。
【Fn】+【F6】	ピープ音のオン / オフ()	ピープ音のオン / オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+ 左【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+ 	PageUp	【PgUp】の役割
【Fn】+ 	PageDown	【PgDn】の役割
【Fn】+ 	Home	【Home】の役割
【Fn】+ 	End	【End】の役割

：2.4GHzワイヤレスLAN機能は、2.4GHzワイヤレスLANモデルのみで使用可能です。



メモ

【Fn】+【F3】、【Fn】+【F5】、【Fn】+【F6】、【Fn】+【F12】の設定については、パソコンを起動するたびに設定をしないする必要があります。



参照

キーボードをより使いやすく設定する  「パソコンガイド」 「パソコンの設定」 「キーボードの設定」 「キーボードの設定」



ボタン/スイッチ

このパソコンには、【インターネット】ボタンと【メール】ボタンの2つのワンタッチスタートボタンがあります。ワンタッチスタートボタンを押すと、あらかじめ割り当てられたアプリケーションが起動します。すばやく簡単にアプリケーションを起動できるので便利です。

ワンタッチスタートボタン

次の各ボタンをまとめて「ワンタッチスタートボタン」と呼びます。ワンタッチスタートボタンを押すと、ボタンに割り当てられているアプリケーションが起動します。


各ボタンの使い方

表示	ボタンの名称	説明
	【インターネット】ボタン	インターネットに接続するためのボタンです。購入時の状態では「インターネット無料体験」またはインターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。
	【メール】ボタン	メールのアプリケーションを起動するためのボタンです。購入時の状態では「Outlook」,「Outlook Express」またはインターネットに接続するためのウィザード画面が起動します。

ワンタッチスタートボタンの設定をする

【インターネット】ボタンや【メール】ボタンを押したときに起動するアプリケーションや機能の有効/無効を「ワンタッチスタートボタンの設定」で設定できます。



「ワンタッチスタートボタンの設定」について  「ばそガイド」「パソコンの設定」「キーボードの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定」または「スタート」「すべてのプログラム」「ワンタッチスタートボタンの設定」「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

ワンタッチスタートボタンを使用するときの注意

- ・ セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンは使えません。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。
このような場合は、以下のいずれかの設定を行ってください。
 - 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブの「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の をクリックして にする
 - 「スタート」「コントロールパネル」「ユーザーアカウント」「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」の「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の をクリックして にする
- ・ パソコンの電源を切った状態からアプリケーションを起動させる場合、ユーザーアカウントを複数設定していると、ログオン画面でユーザーを選択する必要があります。また、パスワードを設定している場合は、ログオンユーザーのパスワードを入力する必要があります。

CD/DVDドライブ

使用できるディスク

このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブ、DVD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブで使えるディスクは次の通りです。

再生可能なディスク

音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD-Videoディスク

読み込み可能なディスク

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RW、DVD-RAM ¹

書き込み可能なディスク

CD-R、CD-RW、DVD-R ²、DVD-RW ²、DVD-RAM ¹


書き換え可能なディスク

CD-RW、DVD-RW ²、DVD-RAM ¹

1 : DVD-RAM/R/RW ドライブモデルのみ

2 : DVD-RAM/R/RW ドライブモデルまたはDVD-R/RW ドライブモデルのみ

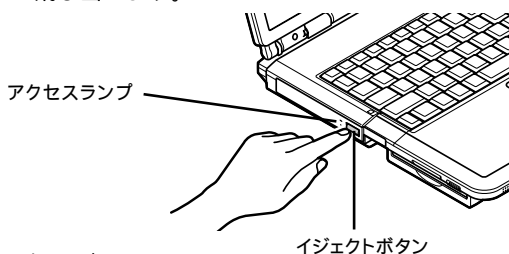
CD/DVDドライブを使用するときの注意

- CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。
- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因となります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができませんことがあります。
- このパソコンで音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す[CD ロゴ]マークの入ったディスクを使用してください。
- CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。

ディスクのセットのしかたと取り出し方

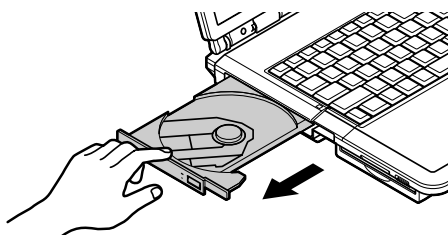
ディスクをセットする

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



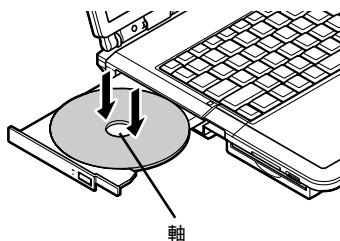
イラストはLaVie Cのものです。

- 2 ディスクトレイを静かに引き出す



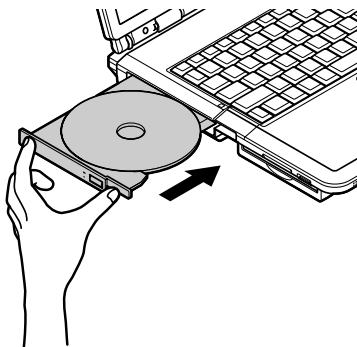
イラストはLaVie Cのものです。

- 3 ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、軸にしっかりはめ込む



イラストはLaVie Cのものです。

- 4 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



イラストはLaVie Cのものです。

ディスクを取り出す

- 1 CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。

チェック

ディスクへのアクセス中(アクセスランプ点灯時)は、ディスクを取り出さないでください。

- 2 ディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 3 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

音楽CDやDVD-Videoディスクを再生する

音楽CDを再生する

このパソコンにインストールされている「BeatJam」で音楽CDを再生できます。音楽CDをCD/DVDドライブにセットするとWindowsの動作を選択する画面が表示されます。「オーディオ CD の再生 BeatJam Selector使用」を選択してください。「BeatJam」が起動します。



参照

「BeatJam」の使い方について 「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または 「スタート」 「すべてのプログラム」 「JUSTSYSTEM アプリケーション」 「BeatJam」 「BeatJamのマニュアル」

音楽CD からのデジタル出力設定

このパソコンでは音楽CDからの出力をデジタルで行うことができます。



参照

音楽CD からのデジタル出力設定 「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「サウンドの設定」 「サウンドの設定」

DVD-Videoディスクを再生する

このパソコンにインストールされている「WinDVD 4」でDVD-Videoディスクを再生することができます。

また、パソコンにテレビを接続すれば、DVD-Videoディスクの映像をテレビに映すことができます。



参照

- ・ 「WinDVD 4」の使い方について 「ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 または 「WinDVD 4」のヘルプ
- ・ DVD-Videoディスクの映像をテレビに映すには PART2の「外部映像出力端子」(p.75)



チェック

このパソコンではリージョンコード(国別地域番号)が2またはフリーに設定されているDVD-Videoディスクのみ再生することができます。


CD-RやCD-RWにデータを書き込む

このパソコンにインストールされている「RecordNow DX」で、CD-RやCD-RWへのデータの書き込みや、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。

チェック

- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項にしてください。

参照


「RecordNow DX」について  「パソコンガイド」アプリケーションの紹介と説明」50音別目次」

DVD-RやDVD-RWにデータを書き込む

DVD-RAM/R/RWモデルまたはDVD-R/RWモデルでは、DVD-R、DVD-RWへのデータの書き込みやDVD-RWの書き換えができます。

DVD-RやDVD-RWへのデータの書き込みや、DVD-RWの書き換えをするには「RecordNow DX」を使用します。

参照

「RecordNow DX」について  「パソコンガイド」アプリケーションの紹介と説明」50音別目次」

DVD-RAMにデータを書き込む

DVD-RAM/R/RWモデルではDVD-R、DVD-RWにくわえてDVD-RAMを使用することができます。

DVD-RやDVD-RWと異なり、DVD-RAMへのデータを書き込みに特別なソフトは不要です。ハードディスクやフロッピーディスクと同様に、ファイルの書き込みや削除が可能です。

チェック

- このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブで、DVD-RAMメディアを使用するときは、カートリッジなしのタイプを使うか、メディア取り出し可能なカートリッジタイプでメディアを取り出してお使いください。
- このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブは、片面2.6Gバイト / 両面5.2GバイトのDVD-RAMメディアへの書き込み、書き換えには対応していません。

DVD-RAMを利用する設定にする

DVD-RAMを利用するためには、次の手順で設定を行ってください。設定を行わない場合、CD-R/RWへの書き込みが優先され、DVD-RAMは利用できません。

- 1 「スタート」 「マイコンピュータ」 をクリックする
- 2 DVD-RAM/R/RWドライブのアイコンを右クリックする
- 3 表示されたメニューの「プロパティ」 をクリックする
- 4 「書き込み」 をクリックする
- 5 「このドライブでCD書き込みを有効にする」 が になっていることを確認する
 になっていた場合は、 をクリックして にしてください。

DVD-RAMをフォーマットする

フォーマットされていないDVD-RAMにデータを書き込むにはフォーマットが必要です。次の手順でフォーマットを行ってください。



チェック

DVD-RAMのフォーマットをするときには、Norton AntiVirusのAuto-Protectを無効にしてください。

- 1 DVD-RAM/R/RWドライブに、フォーマットするDVD-RAMメディアをセットする
- 2 「スタート」→「すべてのプログラム」→「DVD-RAM」→「DVD-RAM ドライバー」→「DVDForm」をクリックする
次の画面が表示されます。



- 3 「フォーマット種別」と「ボリュームラベル」の項目を設定して「開始」をクリックする
フォーマットがはじまります。
- 4 フォーマットが終了して、次の画面が表示されたら「OK」をクリックする



他のDVDプレーヤーでメディアを読み込むときの注意

このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブおよびDVD-R/RWドライブは、次の規格に対応しています。

- ・ DVD-R for General Ver.2.0
- ・ DVD-RW Ver.1.1

このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブまたはDVD-R/RWドライブで書き込みをしたDVD-RメディアやDVD-RWメディアは上記の規格に準拠したDVDプレーヤーで再生できます。

また、上記の規格に準拠したDVDレコーダーで録画したDVD-RメディアやDVD-RWメディアを、このパソコンのDVD-RAM/R/RWドライブまたはDVD-R/RWドライブで再生することもできます。

チェック

- ・ このパソコンのDVD-R/RWドライブでは、DVDビデオフォーマットによる記録・再生が可能です。DVDビデオレコーディング規格には対応していません。
- ・ 「VRモード」で録画したDVD-RメディアおよびDVD-RWメディアをこのパソコンで再生するには、対応ソフトウェアを別途購入することが必要です。
- ・ 書き込みに使用するアプリケーションによっては、他のDVDプレーヤーなどで再生できるようにするために注意が必要な場合があります。詳しくは使用するアプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、DVD-ROM、DVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等についての著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を受けていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製に関する注意事項に当たってください。

フロッピーディスクドライブ

使用できるディスク

LaVie TでUSBフロッピーディスクドライブが添付のモデルまたはLaVie Cでは次の種類のフロッピーディスクが使用できます。

読み込み、書き込み

1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたディスク

フォーマット

1.44Mバイト



参照

フロッピーディスクのフォーマット Windowsのヘルプ

フロッピーディスクドライブの接続のしかたと取り外し方

LaVie TでUSBフロッピーディスクドライブが添付のモデルをお使いの場合は、フロッピーディスクを使用する前に、フロッピーディスクドライブをパソコンに接続してください。

フロッピーディスクドライブの接続


- 1 添付のフロッピーディスクドライブのプラグを、パソコンのUSBコネクタに接続する



参照

USBコネクタへの接続 PART2の「USBコネクタ」

フロッピーディスクドライブの取り外し

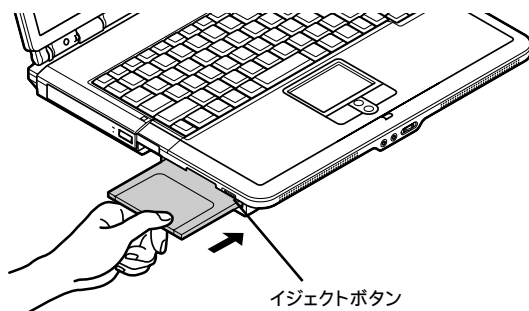
フロッピーディスクドライブを接続すると、画面右下の通知領域にが表示されます。PART2の「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け/取り外しのポイント」をご覧ください。正しい手順で取り外してください。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

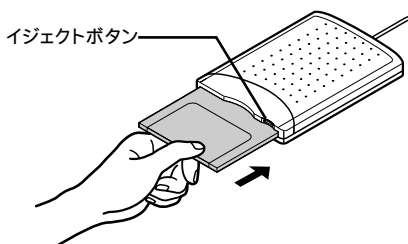
フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクを水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。

・ LaVie Cの場合



・ LaVie Tの場合



フロッピーディスクを取り出す

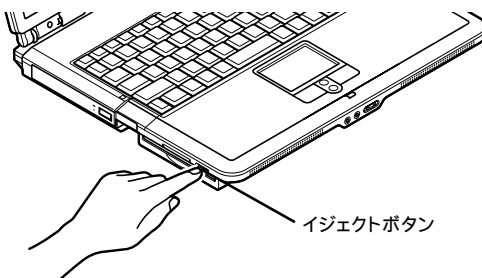
！チェック

- ・ フロッピーディスクを取り出す際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ・ フロッピーディスクアクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

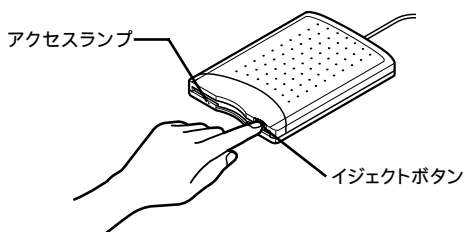
1 イジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し飛び出します。

- ・ LaVie Cの場合



- ・ LaVie Tの場合



2 フロッピーディスクを水平に引き出す

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

- ・ PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・ ディスクのコピーを行う場合、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。
- ・ フォーマットしていないフロッピーディスクを使用すると、処理に時間がかかる場合があります。

メディア用ポケット

メディア用ポケットで使える機器

このパソコンで使用できるメディア用ポケット対応機器と記録メディアは次のとおりです。

型名	名称	使用できる記録メディア
PC-VP-WU15	InfoAudio(インフォオーディオ)	SDメモリーカード
PC-VP-WU08X	マジックゲートメモリースティックアダプタ	メモリースティック、マジックゲートメモリースティック
PC-VP-WU09X	SDメモリーカードアダプタ	SDメモリーカード
PC-VP-WU19	デュアルメモリーアダプタ	SDメモリーカード、メモリースティック、マジックゲートメモリースティック

: Windowsのファイルの保存のみ使用可能。マジックゲートメモリースティックの著作権保護機能には対応していません。

InfoAudioが添付されている場合、詳しい使い方については『InfoAudioを使ってみよう』をご覧ください。

メディア用ポケット対応機器が添付されていないモデルでは、メディア用ポケットに「インナーシートホルダー」が取り付けられています。「メモリースティック」や「SDメモリーカード」を使用するには、別売のメディア用ポケット対応機器が必要です。

著作権保護されたデータを使用するときの注意

マジックゲートメモリースティックアダプタを使用する場合

マジックゲートメモリースティックアダプタを使用する場合、このパソコンにインストールされている「BeatJam」を使用します。


SDメモリーカードアダプタを使用する場合

InfoAudio、デュアルメモリーアダプタ、およびSDメモリーカードアダプタが添付のモデルでは「BeatJam」を使用します。

メディア用ポケット対応機器が添付されていないモデルでは、SDメモリーカードアダプタに添付のアプリケーションを使用してください。



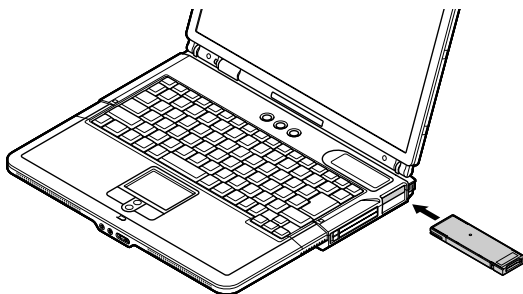
参照

「BeatJam」の使い方について  『ばそガイド』『アプリケーションの紹介と説明』50音別目次」

メディア用ポケット対応機器の取り付け方と取り外し方

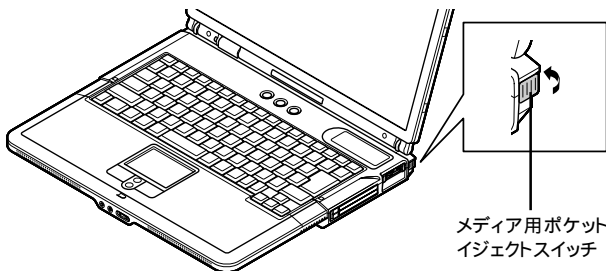
メディア用ポケット対応機器を取り付ける

- 1 メディア用ポケット対応機器をメディア用ポケットに奥までしっかり差し込む



メディア用ポケット対応機器を取り外す

- 1 「周辺機器の取り外し」(p.65)の手順1～4を行う
インナーシートホルダーを取り外す場合は、この手順は必要ありません。手順2に進んでください。
- 2 メディア用ポケットイジェクトスイッチを本体背面側にスライドさせる



メディア用ポケット対応機器が飛び出します。

- 3 メディア用ポケット対応機器を水平に引き抜く

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」を使う

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」でできること

Windows上のファイルをコピーする

Windows上で作成したファイルを「SDメモリーカード」や「メモリースティック」に保存することができます。


音楽CDの曲を保存する

音楽CDの曲を「SDメモリーカード」や「メモリースティック」に保存することができます。

チェック

- ・ 音楽データによっては利用できない場合があります。
- ・ 著作権保護が必要なデータを扱う場合、「SDメモリーカード」または「マジックゲートメモリースティック」を使用する必要があります。著作権保護機能を持たない「メモリースティック」では使用できません。

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なWindows上のファイルは、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」などで扱うことができます。

音楽CDの曲や著作権保護が必要なデータを「SDメモリーカード」や「マジックゲートメモリースティック」に保存する場合は、「BeatJam」を使用します。詳しくは「 ばそガイド」アプリケーションの紹介と説明」50音別目次」をご覧ください。

チェック

インターネットの音楽配信サイトなどから購入した音楽データは、「BeatJam」を使って「SDメモリーカード」や「メモリースティック」に保存することはできません。

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」使用上の注意

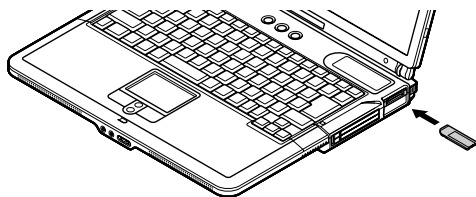
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所では「SDメモリーカード」や「メモリースティック」を使わないでください。
- ・ パソコンや「SDメモリーカード」・「メモリースティック」の不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の保証はいたしかねます。
- ・ あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

「SDメモリーカード」・「メモリースティック」のセットのしかたと取り出し方

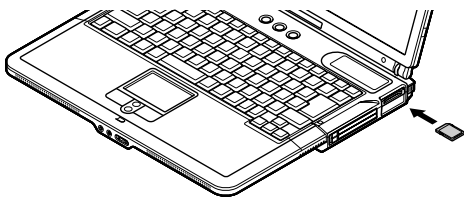
「SDメモリーカード」・「メモリースティック」のセットのしかた

- 1 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」の向きに注意して、メディア用ポケット対応機器に奥までしっかり差し込む

・「メモリースティック」の場合



・「SDメモリーカード」の場合

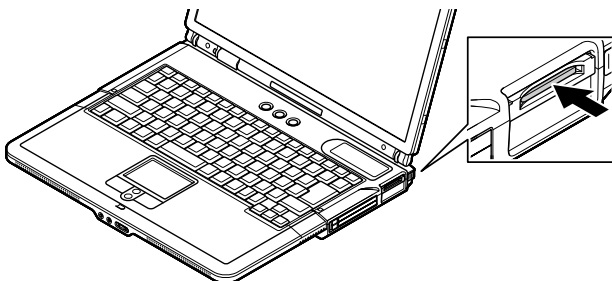


「SDメモリーカード」・「メモリースティック」の取り出し方




データの読み込み / 書き込み中は「SDメモリーカード」や「メモリースティック」を取り出さないでください。

- 1 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」を押す
「SDメモリーカード」または「メモリースティック」が飛び出します。



- 2 「SDメモリーカード」または「メモリースティック」を水平に引き抜く

液晶ディスプレイ

このパソコンの液晶ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、解像度と表示色の変更方法については、「ばそガイド」『パソコンの設定』「画面の設定」『画面の設定』をご覧ください。



参照

このパソコンで表示できる解像度と表示色 PART3の「本体機能一覧 (p.88)」


画面の明るさを調節する

画面の明るさ(輝度)を8段階で調節することができます。画面の明るさの調節はキーボードの次のキーで行います。

機能	キー操作	説明
輝度を上げる(▲☀)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☀)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

便利な表示機能

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチ機能は、このパソコンの液晶ディスプレイの解像度よりも低い解像度でWindowsを使用している場合に、液晶ディスプレイに画面を拡大して表示する機能です。ディスプレイストレッチ機能の設定については、「ばそガイド」『パソコンの設定』「画面の設定」『画面の設定』をご覧ください。

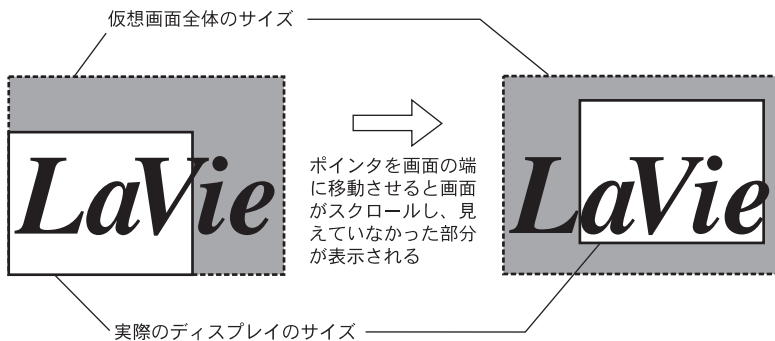


メモ


【Fn】を押しながら【F5】を押すことで、画面を拡大表示する / しないを切り替えることもできます。

バーチャルスクリーン

ディスプレイが表示可能な解像度よりも、大きな解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面サイズよりも大きくなるため、ディスプレイには仮想画面の一部が表示された状態になります。



参照

- ・このパソコンで表示可能な解像度と表示色 PART3の「本体機能一覧」(p.88)
- ・バーチャルスクリーンの設定  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「画面の設定」 「画面の設定」

バッテリー

このパソコンは、コンセントがない場所でもバッテリーのみで使用できます。ACアダプタをパソコンから取り外すと自動的にバッテリー駆動になります。バッテリーのみでの駆動時間は限られていますので、長時間使用するときは、省電力機能を使用することをおすすめします。

バッテリーのみでの駆動時間については、PART3の「本体機能一覧 (p.88)」をご覧ください。

バッテリーでパソコンを使う

バッテリーの残量を確認するには

バッテリーのみで使用中は、バッテリーの残量に注意してください。バッテリーの残量は、次の方法で確認できます。



電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。

①電源ランプ

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー残量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー残量が残りをわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が残りをわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

画面右下の通知領域で確認する

の上にポインタをあわせると、バッテリー残量が表示されます。また、をダブルクリックすると、バッテリーについての詳しい情報が表示されます。

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで確認する

- 1 「スタート」「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする バッテリーの状態を確認できます。

バッテリーの残量が少なくなったら

バッテリー残量が少なくなった場合は、次のどちらかの操作を行ってください。

ACコンセントが使えないとき

使えるACコンセントが近くにない、ACアダプタを持ってきていないなどの理由で、すぐにACコンセントを使用できないときは、使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

ACコンセントが使えるとき

ACアダプタを持っていて、使えるACコンセントが近くにあるときは、パソコンにACアダプタを接続してコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプ(□)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。



バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。

上記の操作をしないで、バッテリー残量が少ないままバッテリーのみで使用していると、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(p.40)になります。



フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、パソコンの電源が切れると、作成中のデータや、フロッピーディスク、ハードディスクのデータが失われたり、壊れることがあります。

バッテリーでパソコンを使用しているときに、バッテリー残量が少なくなった場合や残りわずかになった場合の動作は、次の手順で設定できます。

バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーでパソコンを使用中に、バッテリー残量が少なくなった場合や残りわずかになった場合のパソコンの動作を設定できます。

次の手順で設定してください。

- 1 「スタート」 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。

2 「アラーム」タブをクリックする

- 3 バッテリー残量が少なくなるときの(バッテリー低下アラーム)と、バッテリー残量が残りがわずかなとき(バッテリー切れアラーム)の□が☑になっていることを確認する
□になっている場合、□になっているアラームは動作しません。

4 「アラームの動作」をクリックする

表示されるウィンドウで、次の項目を設定できます。

- ・ 通知方法
音やテキストでバッテリー残量を知らせるかどうかを設定できます。
- ・ アラーム動作
「アラーム後のコンピュータの動作」の左の□をクリックして☑にすると、設定したバッテリー残量になったときの動作をスタンバイ、休止状態、シャットダウンから選択できます。□になっている場合は何もしません。
- ・ プログラムの実行
「アラーム時に、このプログラムを実行する」の左の□をクリックして☑にすると、設定したバッテリー残量になったときにプログラムを実行できます。「プログラムの構成」を押して、実行するプログラムの設定をしてください。

5 「OK」をクリックする

バッテリーを充電する

バッテリーを充電するときの注意

- ・ バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・ できるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない状態で少量の充放電を繰り返すと、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ 購入直後や長期間放置したバッテリーは、必ずフル充電してから使用してください。

バッテリー充電のしかた

バッテリーパックをパソコンに取りつけて、ACアダプタをACコンセントに接続してください。自動的にバッテリーの充電がはじまります。

バッテリーが充電中かどうかは、バッテリー充電ランプ(□)で確認できます。

□ バッテリー充電ランプ

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了



参照

バッテリーの充電時間 PART3の「本体機能一覧」(p.88)

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるために行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- ・ バッテリーでの駆動時間が以前よりも短くなったとき
- ・ 購入直後や、長期間の放置でバッテリーの性能が一時的に低下したとき
- ・ バッテリーの残量表示に誤差が生じているとき

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 バッテリーリフレッシュを行いたいバッテリーパックをパソコンに取り付ける
- 3 パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに差し込む
バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリーパックを取り付けなおしてください。
- 4 バッテリーをフル充電する
バッテリーがフル充電されると、バッテリー充電ランプが消灯します。
- 5 BIOSセットアップユーティリティを起動する(p.86)
- 6 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 7 【】を押して「終了」メニューを選び、【】を押して「バッテリーリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す

8 「実行しますか？」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す

9 【Y】を押す

バッテリーリフレッシュがはじまります。



バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
また、バッテリーリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリーリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するときは、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。
バッテリーリフレッシュが中断されて、パソコンの電源が切れます。



バッテリーリフレッシュ中にACアダプタを接続すると、バッテリーリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。その場合、ACアダプタを取り外し、【Y】を押してください。バッテリーリフレッシュが続行します。

バッテリーパックを交換する

バッテリーリフレッシュを行ってもバッテリーの性能が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

このパソコンで使用できる交換用バッテリーパック

このパソコンに取り付けることのできる交換用のバッテリーパックは、次の表のとおりです。


品名	型番
バッテリーパック(ニッケル水素)	PC-VP-WP37
バッテリーパック(リチウムイオン)	PC-VP-WP38

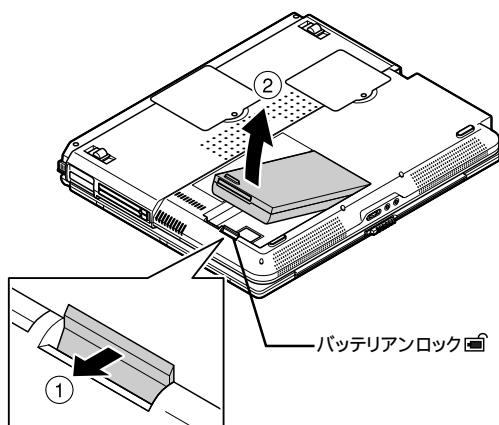
バッテリーパックの交換をするときの注意

- ・バッテリーパックの交換を行う際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ・バッテリーやバッテリースロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・休止状態またはスタンバイ状態のままにバッテリーパックを交換しないでください。バッテリーパックの交換を行うときは、休止状態またはスタンバイ状態を解除してパソコンの電源を切ってください。
- ・特に必要でない限り、バッテリーパックを交換しないでください。故障の原因となります。

バッテリーパックの交換のしかた

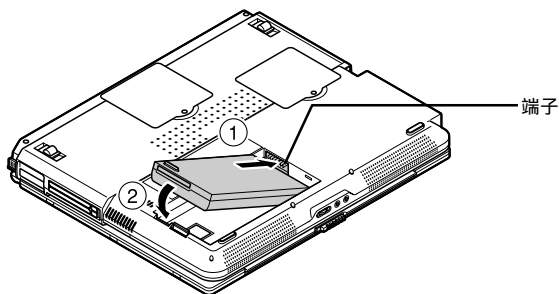
- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いて、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック()を矢印の方向にスライドさせ、スライドさせたままの状態ではバッテリーパックを取り外す



イラストはLaVie Cのものです。

- 5 新しいバッテリーパックを端子の位置に注意してバッテリースロットにセットし、端子の側にスライドさせてから倒し込む



イラストはLaVie Cのものです。

バッテリーパックのリサイクルについて

- ・ 本機はニッケル水素電池またはリチウムイオン電池を使用しています。
- ・ ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。交換後不要になった電池、および使用済みの製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火のおそれがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。
 - 個人ユーザー様: 充電式電池リサイクル協力店くらぶ
詳細は、電池工業会ホームページ(<http://www.baj.or.jp/>)をご覧ください。
 - 法人ユーザー様: NEC法人向け二次電池持ち込み拠点
詳細は、NEC環境ホームページ(<http://www.nec.co.jp/japanese/profile/kan/index.html>)をご覧ください。
- ・ リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。
 - 製品、ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
 - (社)電池工業会小型二次電池再資源化推進センターおよび充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
- ・ リサイクル時のご注意
 - 電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
 - 外装カバー(被膜・チューブなど)をはがさないでください。
 - 電池を分解しないでください。



Ni-MH
または
Li-ion

省電力機能

省電力機能を使用すれば、一定時間パソコンを操作しなかったときなどに、電力を節約することができます。

また、使用を一時中断したいときなどに、省電力機能を設定しておけば、あとから作業を再開するときに、普通に電源を切ったときよりも速くパソコンを起動して作業を再開できます。



メモ

バッテリーのみでパソコンを使っているときは、バッテリーを効率よく使い、駆動時間を長くできます。

省電力機能について

省電力状態とは

省電力機能によってパソコンが電力を節約している状態を、省電力状態と呼びます。省電力状態には、「スタンバイ状態」と「休止状態」があります。また、これらをまとめて「スリープ状態」と呼ぶ場合もあります。

スタンバイ状態

パソコンの液晶ディスプレイやハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スタンバイ状態を解除すると、すぐに作業の続きをはじめることができます。少しの間、作業を中断する場合などに便利です。

休止状態

パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。休止状態を解除すると、休止状態にする前の状態から作業を続けることができます。Windowsを終了していないので、Windowsの起動にかかる時間は短くなります。



メモ

アプリケーションによっては、スタンバイ状態のことを「サスペンド」、休止状態のことを「ハイバネーション」、省電力状態から復帰することを「レジューム」と呼ぶことがあります。

省電力状態の確認

パソコンが省電力状態になっているかどうかは、電源ランプ (🔌) で確認できます。

🔌電源ランプ

ランプ	状態
緑点滅	スタンバイ状態
黄色点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が少ない
オレンジ点滅	スタンバイ状態でバッテリー残量が残りがわずか
消灯	電源が切れている、または休止状態



チェック


電源ランプが点灯状態のときは、省電力状態になっていません。詳しくは「バッテリー」の「バッテリーでパソコンを使う」(p.32)をご覧ください。

省電力機能を利用するときの注意

省電力機能を利用できないとき

- 次のようなときには、省電力機能を使用しないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。
 - ハードディスクやフロッピーディスク、CD-ROMなどのディスクの読み書きをしているとき
 - 省電力状態に対応していないアプリケーションや周辺機器を使用しているとき
 - 音声または動画ファイルを再生しているとき
 - プリンタへ出力しているとき
 - LANまたはワイヤレスLANでファイルコピーなどの通信作業をしているとき
 - 通信用のアプリケーションを使用しているとき
 - 電話回線を使って通信しているとき
 - 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されているとき
 - Windowsの起動/終了処理中
- NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能が正常に動作しないことがあります。その場合は、「省電力機能の設定をする」(p.44)をご覧ください、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

省電力状態にするときの注意

- ・ 省電力状態への移行中にフロッピーディスクやCD-ROMなどのディスク、PCカードの入れ替えを行わないでください。
- ・ 省電力状態にする前に、フロッピーディスクやCD-ROMなどのディスクを取り出してください。
- ・ 省電力状態のときに、PCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しを行わないでください。
- ・ 休止状態を利用する場合、ハードディスクにパソコンのメモリ容量分の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。確認のしかたについて詳しくは、「パソコンガイド」 「トラブル解決Q&A」 「省電力機能」 「スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)にできない」をご覧ください。

省電力状態にする

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力がないと、自動的にスタンバイ状態になります。また、次の手順でスタンバイ状態にすることもできます。

1 「スタート」 「終了オプション」 をクリックする

2 「スタンバイ」 をクリックする



次の操作でスタンバイ状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



省電力機能の設定 「省電力機能の設定をする (p.44)」

休止状態にする

購入時の状態では、バッテリー駆動時に一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力がなく、自動的に休止状態になります。また、次の手順で休止状態にすることができます。

- 1 「スタート」「終了オプション」をクリックする
- 2 【Shift】を押したまま、「休止状態」をクリックする
【Shift】を押すと、「スタンバイ」が「休止状態」に切り替わります。



メモ

次の操作で休止状態になるように、設定することもできます。

- ・ 電源スイッチを押す
- ・ 液晶ディスプレイを閉じる



参照

省電力機能の設定 「省電力機能の設定をする (p.44)

省電力状態から復帰する

休止状態またはスタンバイ状態から復帰するときの注意

- ・ 休止状態またはスタンバイ状態から復帰するときにパスワードを入力するように設定している場合、パスワード入力画面が表示されるので、パスワードを入力してください。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」をクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。
- ・ タイマ、LAN、FAXモデムの自動受信操作や、液晶ディスプレイを開いてスタンバイ状態から復帰した場合、液晶ディスプレイに何も表示されないことがあります。その場合は、NXパッドかキーボードを操作してください。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないように、休止状態またはスタンバイ状態になった後、5秒以上たってから操作してください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
ログオン画面が表示されます。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする

上記以外にも次の方法でスタンバイ状態から復帰できます。

液晶ディスプレイを開いて復帰する

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くとスタンバイ状態から復帰できます。

タスクスケジューラを使って復帰する

タスクスケジューラを使い、時刻を指定して復帰できます。



参照

タスクスケジューラの使い方 Windowsのヘルプ

休止状態から復帰する

休止状態から復帰するには、次の操作を行ってください。

- 1 パソコンの電源スイッチを押す
「Windows を再開しています ...」と表示された後、ログオン画面が表示されません。
- 2 ログオンしたいユーザー名をクリックする
休止状態にする前の状態でWindowsが起動します。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源オプションのプロパティ」の画面で行います。省電力機能が働くまでの時間や、スタンバイ状態や休止状態にするための操作を設定することができます。



チェック

省電力機能の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

省電力機能が働くまでの時間を設定する

- 1 「スタート」 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 次の項目について、時間を設定する

状態	説明
モニタの電源を切る	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、液晶ディスプレイの電源が切れます。
ハードディスクの電源を切る	ここで指定した時間、ハードディスクへのアクセスがなかった場合、ハードディスクの電源が切れます。
システム スタンバイ	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンがスタンバイ状態になります。
システム休止状態	ここで指定した時間、何も入力がなかった場合、自動的にパソコンが休止状態になります。

- 4 「適用」をクリックし、「OK」をクリックする

休止状態やスタンバイ状態にする操作を設定する

- 1 「スタート」 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックする
「電源オプションのプロパティ」が表示されます。
- 2 「詳細設定」タブをクリックする
- 3 「電源ボタン」欄で、それぞれの操作をしたときの動作を設定する
 - ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
パソコンの液晶ディスプレイを閉じたときの動作を選択します。
 - ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
パソコンの電源スイッチを押したときの動作を選択します。

状態	説明
何もしない	その操作をしても、何もしません。
入力を求める	「コンピュータの電源を切る」の画面が表示されます。動作を決定してください。
スタンバイ	スタンバイ状態にします。
休止状態	休止状態にします。
シャットダウン	Windowsを終了して、パソコンの電源を切ります。

：「コンピュータの電源ボタンを押したとき」のみ設定可能



休止状態を利用する場合は、「休止状態」タブをクリックして、「休止状態を有効にする」がになっていることを確認してください。

4 「適用」をクリックして、「OK」をクリックする

LAN(ローカルエリアネットワーク)

LANコネクタを使ってできること

接続する機器によって次のようなことができます。

ブロードバンドでインターネットに接続する

LANコネクタにADSLモデムやCATVモデムを接続してブロードバンドでインターネットに接続することができます。

ネットワークを作る

ネットワークを作ると、複数のパソコンでプリンタやファイルを共有することができます。

複数のパソコンでインターネット接続を共有する

ブロードバンドルータを使用すると、複数のパソコンでのプリンタやファイルの共有だけでなく、複数のパソコンから同時にインターネットを使用することができます。

LANケーブルを接続する

接続するときの注意

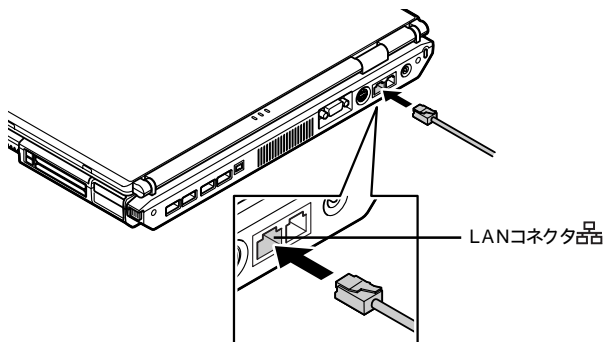
- ・ LANケーブルは別売です。
- ・ 接続するLANや機器の規格にあったLANケーブルを用意してください。
- ・ 100BASE-TXでLANに接続するためには、カテゴリ5のLANケーブルが必要です。

チェック

LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。目的によって使用するケーブルが違うので、購入の際は注意してください。どちらのケーブルが必要かは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

接続のしかた

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを向きに注意して、パソコンのLANコネクタ(品)に接続する




イラストはLaVie Cのものです。

- 3 LANケーブルのもう一方のプラグを、ADSLモデムやハブなどの機器のLANコネクタに接続する
詳しくは、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

ネットワークの設定

ネットワークの設定をする

ADSLモデムやCATVモデム、ルータを使用してインターネットに接続するための設定については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。
ネットワークの設定は、次の方法で行います。

- 1 「スタート」 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」 をクリックする
「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。
- 2 画面の説明を読み、設定を行う
LANの設定について  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ネットワークの設定」 「LANの設定」

ネットワーク上の自分のパソコンを確認する

ネットワークの設定を行うと、「マイネットワーク」にお使いのパソコンの名前が表示されます。「スタート」>「マイコンピュータ」の「マイネットワーク」をクリックして確認してください。

セキュリティの設定

常時接続を行っている時、パソコンへの不正侵入を受けやすくなります。このパソコンにインストールされている「PCGATE Personal」を使って、セキュリティの設定をしてください。



参照

「PCGATE Personal」について 「ばそガイド」の「アプリケーションの紹介と説明」>「50音別目次」

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定

このパソコンをネットワークに接続している場合、電源回復イベントが発生するとパソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。詳しい設定方法については、 「ばそガイド」の「パソコンの設定」>「ネットワークの設定」>「LANの設定」をご覧ください。



チェック

- ・電源回復を使用する場合は、パソコンにACアダプタを取り付けてコンセントからの電源で使用してください。
- ・電源回復の設定をすると、購入時の状態に比べてパソコンの消費電力が大きくなり、バッテリーのみで使用する場合、使用できる時間が短くなります。バッテリーのみで使用できる時間を優先する場合は、電源回復の設定は行わないでください。

LAN使用上の注意

- ・ネットワークを使用している間はLANケーブルをパソコンや機器から取り外さないでください。
- ・ネットワークとの通信中は、パソコンを休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・100BASE-TX / 10BASE-Tシステムの保守については、購入元や当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間の通信をするときは、パソコンにACアダプタを接続しコンセントからの電源で使用してください。

2.4GHzワイヤレスLAN

ここでは、2.4GHzワイヤレスLANモデルについての説明をしています。それ以外のモデルで2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用する場合は、別売の機器が必要になります。

ワイヤレス機器を安全にお使いいただくために

2.4GHzワイヤレスLAN機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。

2.4GHzワイヤレスLAN機能の紹介

2.4GHzワイヤレスLAN機能でできること

このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能と、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器を使用することで、次のようなことができます。

ワイヤレスでインターネットに接続

2.4GHzワイヤレスLANに対応したADSLモデムなどの通信機器に2.4GHzワイヤレスLAN機能で接続すれば、パソコンにケーブルを繋ぐことなくインターネットへのアクセスができます。

ワイヤレスLANネットワークを作る

2.4GHzワイヤレスLAN機能に対応したパソコンや機器でネットワークを作れば、ケーブルで接続したり、ディスクなどの媒体を使用しなくてもファイルのやりとりなどが可能です。2階のパソコンと1階のパソコンでファイルのやりとりをするなど、これまでのケーブル接続を必要としたLANでは少し面倒だったことも可能になります。

チェック

2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントやレジデンシャルゲートウェイなどが必要です。

接続できる機器

- ・ このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は「IEEE802.11b」という規格に対応しています。「IEEE802.11b」に対応している機器と2.4GHzワイヤレスLAN機能で接続できます。ただし、機器によっては接続できないこともあるので、機器を購入する前にメーカーや販売店に確認してください。
- ・ このパソコンに接続できるNEC製の2.4GHzワイヤレスLAN対応機器については、NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェア ドットコム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

2.4GHzワイヤレスLAN機能の通信距離と速度


通信できる距離

2.4GHzワイヤレスLAN機能では、このパソコンと相手の機器との間に壁などの障害物がなければ、70m程度まで通信ができます。ただし、家庭やオフィスには通信の障害となるものがあるため、通信できる距離はもっと短くなります。

通信速度

規格上は11Mbpsが最大の通信速度となりますが、一般にはその50%以下の速度で通信が行われます。

通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。また、通信状態が悪くなって通信が途切れそうになると、通信が途切れないようにするために、自動的に通信速度を落とす機能があります。

現在、どのくらいの速度で通信しているかは、画面右下の通知領域のをダブルクリックすると表示される画面で確認できます。

安定した通信をするために

- ・ パソコンと相手の機器との距離は、できるだけ近くする。
- ・ 通信中は近くで電子レンジを使わない。
- ・ 近くにBluetooth™対応機器がある場合は、Bluetooth™機能をオフにする。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のセキュリティ


このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は「WEP機能」に対応しています。「WEP機能」に対応していることで、2.4GHzワイヤレスLAN機能での通信を盗聴されたり、関係のないパソコンや機器と接続することを防ぐことができます。

WEP機能には「64ビットWEP対応」のものと「128ビットWEP対応」のものがありますが、このパソコンの2.4GHzワイヤレスLAN機能は、より安全な「128ビットWEP対応」です。




WEF機能を使用するには、通信する相手の機器もWEF機能に対応している必要があります。



WEF機能の設定  『パソコンガイド』「パソコンの設定」ネットワークの設定」ワイヤレスLANの設定」

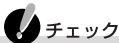
2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフ

他の機器に影響をあたえる場合や、2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用しないときは、2.4GHzワイヤレスLAN機能をオフにしてください。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフの状態は、パソコン本体のワイヤレスランプ()で確認できます。

ワイヤレスランプ

ランプ	状態
緑点灯	オン(2.4GHzワイヤレスLAN機能が使用可能)
消灯	オフ(2.4GHzワイヤレスLAN機能が使用不可)



「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替えた場合は、ワイヤレスランプでは確認できません。

2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた

2.4GHzワイヤレスLAN機能をオン/オフするには、次の方法があります。

BIOSセットアップユーティリティで切り替える

BIOSセットアップユーティリティで、2.4GHzワイヤレスLAN機能のオン/オフを切り替えることができます。詳しくは「ばそガイド」をご覧ください。



参照

- ・BIOSセットアップユーティリティ PART3の「BIOSセットアップユーティリティ」
- ・BIOS設定  「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ハードウェア情報」 「BIOS設定」

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で切り替える



チェック

この方法で切り替えると、ワイヤレスランプで2.4GHzワイヤレスLAN機能の状態の確認はできません。


オフにする

「ワイヤレスネットワーク接続の状態」の画面で「無効にする」をクリックする

オンにする

「スタート」 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク接続」 をクリックし、「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンをダブルクリックする

2.4GHzワイヤレスLAN機能の設定を行う

2.4GHzワイヤレスLANへの接続のしかたや設定について詳しくは、 「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ネットワークの設定」 「ワイヤレスLANの設定」 をご覧ください。

モデム

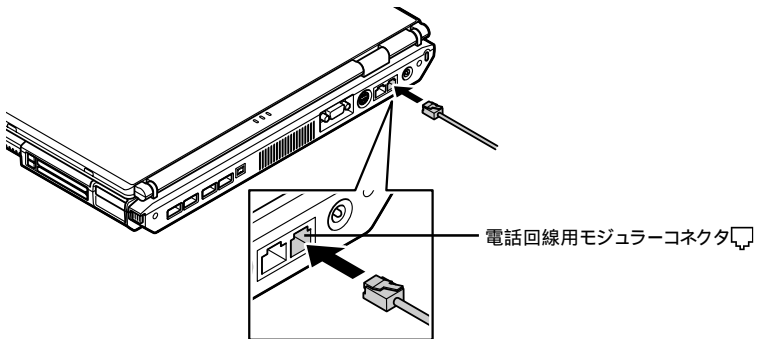
電話回線に接続する

● チェック

モジュラーケーブルを接続するには、お使いの電話回線のコネクタがモジュラーコンセントになっている必要があります。お使いの電話回線が3ピンプラグ式コンセントの場合は、市販のモジュラーコンセントへの変換プラグが必要です。

直結配線方式の場合はモジュラーコンセントへの変更が必要になります。詳しくはNTTへご相談ください。

- 1 壁面などのモジュラーコンセントから、電話機などのモジュラーケーブルを取り外す
- 2 パソコンの電源を切る
- 3 モジュラーケーブルのプラグを向きに注意して、パソコンの電話回線用モジュラーコネクタ(□)に接続する



イラストはLaVie Cのものです。


4 モジュラーケーブルのもう一方のプラグを、壁面などのモジュラーコンセントに接続する

電話回線のモジュラーコンセントが1つの場合、パソコンで通信をするときは電話機のモジュラーケーブルを取り外す必要があります。また、市販の分岐アダプタを使用すれば、電話機とパソコンの両方を接続できます。

チェック

- ・分岐アダプタを使用しても、パソコンでの通信と電話機の使用を同時に行うことはできません。
- ・パソコンで通信しているときは、電話機の手話器を外さないでください。通信が切断されることがあります。

モデムを使う

パソコンのモデムを使ったインターネットへの接続のしかたや設定について詳しくは、「ばそガイド」『パソコンの設定』『通信の設定』『モデムの設定』をご覧ください。


インターネットへの通信環境を切り替える

「ネット簡単切替ツール」を使うと、ダイヤルアップ接続とLAN接続の切替や、ダイヤルアップ先の切替が簡単にできます。オフィスと自宅の両方で接続する場合や複数のプロバイダと契約している場合に便利です。


チェック

「ネット簡単切替ツール」は購入時にはインストールされていません。「インストーラ-NX」を使って、インストールしてください。「ソフトナビゲーター」からインストールすることもできます。



参照

「ネット簡単切替ツール」について 「ばそガイド」『パソコンの設定』『ネットワークの設定』『ネット簡単切替ツール』または「スタート」『すべてのプログラム』『ネット簡単切替ツール』『ネット簡単切替ツール ヘルプ』

通信が終了したら

通信が終了したら、画面右下の通知領域に  が表示されていないことを確認してください。

モデムを使用するときの注意

- ・このパソコンのモデムは海外では使用できません。
- ・通信を行うときは、使用していないアプリケーションは終了してください。
- ・通信中は休止状態やスタンバイ状態にしないでください。
- ・ダイヤルアップ接続中またはダイヤルアップ接続で通信中に、【Fn】を使ってディスプレイの切り替えや画面の伸縮をしたり、ピープ音や輝度の調節を行わないでください。ダイヤルアップ接続できない場合や通信が切断される場合があります。
- ・内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。それ以外の回線に接続すると故障、破損の原因になります。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ったり、希望の通信速度では通信できない場合があります。
- ・キャッチホンサービスをご利用の場合、通信中に電話がかかってくると、モデムでの接続が切断されることがあります。
- ・コードレスホンや親子電話など加入電話回線以外の回線を使っている場合、正常なデータ通信ができないことがあります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでのファクシミリ通信ができない場合があります。その場合は通信速度を9,600bpsに変更してください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。
- ・構内交換機(PBX)の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。
- ・回線状況が悪く、うまく接続ができない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整を、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定の窓口にご相談ください。
- ・ハイパーターミナルなどを使用して通信する場合はATコマンドが必要です。ATコマンドについては、「ばそガイド」、「パソコンの設定」、「ハードウェア情報」、「ATコマンド」をご覧ください。
- ・このパソコンのモデムはデータ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使用できますが、添付のアプリケーション以外では機能が使用できない場合があります。これらの機能について詳しくは、「ばそガイド」をご覧ください。

携帯電話 / PHS 接続機能

このパソコンと携帯電話やPHSを接続して、外出先や屋外でインターネットや電子メールを利用することができます。

携帯電話またはPHSで通信する

接続に必要なケーブル

携帯電話やPHSを接続するには、別売の携帯電話接続ケーブルやPHS接続ケーブルが必要です(LaVie Gシリーズで、それぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- ・ 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- ・ cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- ・ PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)



接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

携帯電話またはPHSを接続する



携帯電話またはPHSを接続する際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

- 1 接続ケーブルの携帯電話またはPHS側のプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する


プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

- 2 接続ケーブルのUSBプラグを、このパソコンのUSBコネクタに接続する



USBコネクタへの接続について詳しくは、PART2の「USBコネクタ(p.66)」をご覧ください。

携帯電話またはPHSを使う設定にする

携帯電話またはPHSを使ってプロバイダに接続するときは、「**パソコンガイド**」**パソコンの設定**」**通信の設定**」**携帯電話/PHSの設定**」をご覧ください。携帯電話またはPHSを使う設定に変更してください。

チェック

- ・お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側での設定や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。
- ・携帯電話を接続するUSBコネクタを変更した場合、新しいモデムとして認識されます。このようなときは、接続先のプロパティで「**接続の方法**」を変更するか、新しいモデムを指定した接続先を作成してください。


接続するアクセスポイントを変更する

携帯電話またはPHSを使ってインターネットや電子メールを利用する場合、最寄りのアクセスポイントに接続することで電話料金を節約できます。

「**ネット簡単切替ツール**」を使うと、使用する場所にあわせて簡単にアクセスポイントなどのダイヤル設定やインターネットエクスプローラ、メールソフトの設定を切り替えることができます。

チェック

「**ネット簡単切替ツール**」は購入時にはインストールされていません。「**インストーラ-NX**」を使って、インストールしてください。「**ソフトナビゲーター**」からインストールすることもできます。

「**ネット簡単切替ツール**」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、あらかじめ設定をしておく必要があります。「**パソコンガイド**」**パソコンの設定**」**通信の設定**」**ネットワークの設定**」をご覧ください。「**ネット簡単切替ツール**」の設定を行ってください。

メモ

- ・アクセスポイントについては、契約しているインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。
- ・最寄りのアクセスポイントを利用しなくても、インターネットやメールは利用できます。ただし、接続しているアクセスポイントまでの距離によっては、電話料金が高額になることがあります。
- ・BIGLOBE会員の方は、「**スタート**」**すべてのプログラム**」BIGLOBEでインターネットはじめましょう」BIGLOBEでインターネット」をクリックし、「**インターネット・メールの設定** **家族会員のお申込み**」をクリックして表示される画面をご覧ください。



参照

「ネット簡単切替ツール」について 『ばそガイド』 『パソコンの設定』 『ネットワークの設定』 『ネット簡単切替ツール』、または 『スタート』 『すべてのプログラム』 『ネット簡単切替ツール』 『ネット簡単切替ツール ヘルプ』

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。



チェック

データ通信を利用する場合は、アクセスポイントが利用するデータ通信に対応していることを確認してください。アクセスポイントが利用するデータ通信方式に対応していないと、接続できなかつたり、正常に通信できないことがあります。

データ通信の種類		必要な接続ケーブル	データ通信の利用に必要な設定
cdmaOne ¹		cdmaOne接続ケーブル (PC-VP-WK06)	特別な設定は必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス (パケット通信サービス)	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##02」を追加する ²
	PHS 64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK07)	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ (PIAFS64K機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##4」を追加する
	ドッチーモ (PIAFS32K機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##3」を追加する ⁴
DDIポケット	PIAFS32K対応電話機	PHS (DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##3」を追加する ⁴
	H ^Y (エッジ)	PHS (DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##4」を追加する ⁵

1: データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードを利用する場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2: DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3: ドッチーモでPIAFS通信を行う場合は、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。

4: NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5: 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがあります。32Kbpsで接続されます。

また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合
- ・回線が混雑している場合

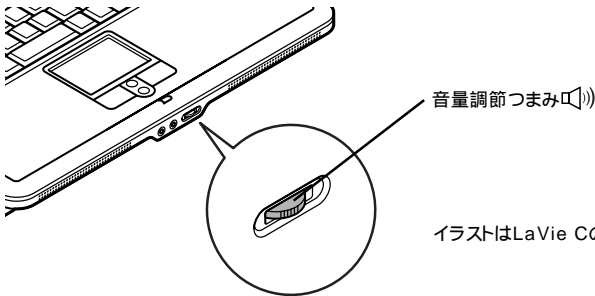
サウンド機能

音量を調節する

音量調節つまみを使う

音量調節つまみ(🔊)で内蔵スピーカの音量を調節できます。

音量を上げたいときは音量調節つまみを右側に回し、下げたいときは左側に回します。




ボリュームコントロールを使う

Windowsのボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。



参照


ボリュームコントロールの使い方  『パソコンのガイド』「パソコンの設定」「サウンドの設定」「サウンドの設定」

音楽CDからのデジタル出力設定

このパソコンでは、音楽CDの再生音をデジタル出力することができます。



参照

音楽CDからデジタル出力するための設定について  『パソコンのガイド』「パソコンの設定」「サウンドの設定」「サウンドの設定」

PART

2

パソコンにつなぐ

周辺機器を使用するときのポイント

周辺機器の購入や、実際に使用するときのポイントを簡単にご紹介します。

周辺機器を選ぶときのポイント

周辺機器は種類が多く、どれを選べばよいか迷うことがあるかもしれません。周辺機器を購入するときには、次の点に注意して、自分の目的にあった製品を選びましょう。

買う前に確認しておくこと

目的にあっているか、欲しい機能はついているか

たとえば一口でプリンタといっても、写真画質の印刷が得意なものや、文章の印刷が速いものなど、製品によって機能に違いがあります。その製品が自分の目的にあっているか、欲しい機能はついているかを確認しておきましょう。

このパソコンで使用できるか

周辺機器がこのパソコンで使えるかを確認しておきましょう。次のようなチェックポイントがあります。

このパソコンに接続できるか

パソコンと周辺機器を接続する方法は何種類があります。周辺機器を接続するのに必要なコネクタやスロットがこのパソコンに用意されているかを確認しておきましょう。

このパソコンのOSに対応しているか

このパソコンにはWindows XPがインストールされています。周辺機器がWindows XPで使えるかを確認しておきましょう。

情報を集めるには

周辺機器についての情報を集めるには、次のような方法があります。

121ware.comで調べる

NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェア ドットコム)」では、NECの周辺機器の情報や、NEC製のパソコンと周辺機器の対応を確認できます。また、ショッピングのページでは、いろいろな周辺機器をインターネット上で購入でき、大変便利です。

NECのパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com(ワントゥワンウェア ドットコム)」

<http://121ware.com/>

インターネットで調べる

周辺機器メーカーのホームページや、パソコン関連の情報サイト、販売店のホーム

ページなどが参考になります。検索サイトで、周辺機器の名前から検索してみるのも良いでしょう。実際に使った人の感想など、使っていないとわからない情報が入手できるかもしれません。

詳しい人に聞く

知り合いにパソコンに詳しい人がいるときは、欲しい周辺機器や目的をその人に伝えて相談してみると良いでしょう。

雑誌やカタログで調べる

パソコン関係の雑誌の製品紹介記事や、製品のカタログなどが参考になります。

買うときに確認すること

実際に周辺機器を購入するときには、次の点を確認しておきましょう。よくわからないときは、販売店に確認してください。

周辺機器を使うために必要なものはそろっているか

周辺機器によっては、パソコンとの接続に必要なケーブルや専用接続キット(アダプタ類、電源ケーブルなどのセット)を別途購入しなければならないこともあります。必要なものが別売のときは一緒に購入しておきましょう。

必要な消耗品はないか

たとえば、プリンタには、用紙やインクが必要です。消耗品が添付されていないときは、周辺機器と一緒に購入しましょう。

周辺機器をはじめて接続するときのポイント

周辺機器のマニュアルを読む

周辺機器の取り付けをする前に、まず周辺機器に添付されているマニュアルをよく読みましょう。周辺機器を使う上で大事な情報が書かれています。周辺機器のマニュアルを読むときは、次の点を確認しておきましょう。

取り付けの手順

取り付ける前に、デバイスドライバやソフトウェアのインストールが必要な場合があります。取り付けの手順を確認して、手順どおりに行ってください。

パソコンの電源のオン/オフ

パソコンの電源を入れて取り付けるものと、切った状態で取り付けるものがあります。

デバイスドライバのインストールや設定

Windowsにドライバが準備されていない場合や、専用のドライバを使う場合など、デバイスドライバのインストールや設定が必要なことがあります。周辺機器のマニュアルや次のページの「デバイスドライバ」をご覧ください。

Windowsの設定

周辺機器によっては、Windowsの設定を変更する必要があるものがあります。

周辺機器を取り付けるときの注意

パソコンが省電力状態のときは周辺機器の取り付けを行わない

省電力状態のときに周辺機器を接続すると、パソコンや周辺機器が正常に動作しなくなることがあります。省電力状態になっているときは、省電力状態を解除してから取り付けてください。

周辺機器は1つずつ取り付ける

複数の周辺機器を取り付けるときは、1つずつ取り付けて、正しく動作したことを確認してから次の周辺機器を取り付けてください。一度に取り付けると、正しく動作しないことや、問題が起きたときの原因の周辺機器がわかりにくくなります。

デバイスドライバ

デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、「ドライバ」と呼ぶこともあります。周辺機器によっては、パソコンにデバイスドライバをインストールする必要があります。

周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかによって、ドライバのインストール方法が異なります。詳しくは周辺機器のマニュアルで確認してください。

「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器

Windows XPにドライバが準備されている場合


周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバのインストールが行われ、周辺機器が使用できる状態になります。周辺機器によってはインストール後に設定が必要なこともありますので、周辺機器のマニュアルで確認してください。

Windows XPにドライバが準備されていない場合 / 専用のドライバがある場合
周辺機器に付属のCD-ROMなどからドライバをインストールする必要があります。周辺機器によっては、取り付けの前にドライバのインストールが必要な場合もあります。

ドライバの詳しいインストール手順や設定方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器

周辺機器を使うためには、ドライバのインストールが必要です。周辺機器のマニュアルにしたがってドライバのインストールをしてください。

ドライバのインストールがうまくいかなかった場合は、周辺機器のマニュアル、周辺機器メーカーのホームページ、または  「ばそガイド」「トラブル解決Q&A」「周辺機器」をご覧ください。

周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント

周辺機器を取り付け / 取り外しをするときの注意


- ・ 周辺機器の取り付け / 取り外しをする際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずお読みください。
- ・ 省電力状態のときは、周辺機器の取り付け / 取り外しは行わないでください。


周辺機器の取り付け

一度接続して、使用するための設定を済ませた周辺機器を再接続する場合、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待つと使用できます。

周辺機器の取り外し

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、パソコンの電源を入れたままでも取り付けや取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されているときは、次の手順で取り外しを行ってください。次の手順で取り外しをしないと、パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの安全な取り外し」が表示されます。
- 2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」をクリックする
周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」で取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」をクリックする
画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「閉じる」をクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」を閉じる
これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

USBコネクタ

USBコネクタには、プリンタやイメージスキャナなど、さまざまなUSB機器を取り付けることができます。また、このパソコンのUSBコネクタはUSB 2.0に対応しており、USB 2.0に対応している外付けハードディスクなどの周辺機器を利用できます。基本的な取り付け方はどのUSB対応機器でも同じです。

USBコネクタについて

このパソコンのUSBコネクタ




このパソコンには、USB 2.0に対応したUSBコネクタが用意されています。USBコネクタにはUSB 2.0対応機器とUSB 1.1対応機器を取り付けることができます。

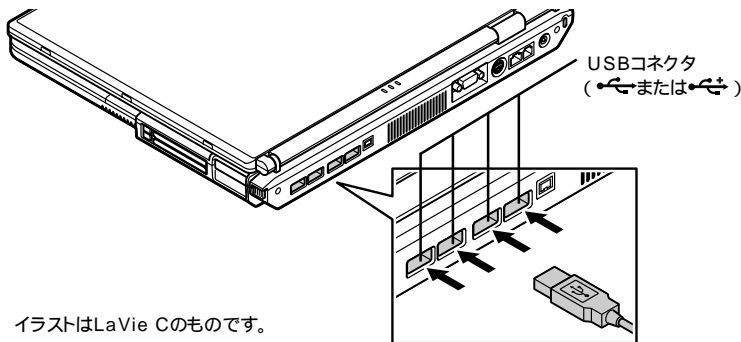
接続の前に

- ・ 機器によってはドライバやアプリケーションの設定が必要になるものもあります。取り付ける機器のマニュアルをご覧ください。必要な設定を行ってください。
- ・ USB 2.0対応機器を使用するときは、USBハブ、USBケーブルもUSB 2.0に対応したものをお使いください。

USB対応機器の取り付け方と取り外し方

USB対応機器を取り付ける

- 1 USB対応機器のプラグを向きに注意して、パソコンのUSBコネクタ(LaVie Cの場合、LaVie Tの場合)に差し込む
プラグのが上を向くように差し込みます。どのUSBコネクタに差し込んでてもかまいません。



- 2 USB対応機器が正しく認識されたかを確認する
確認方法については、USB対応機器のマニュアルをご覧ください。



チェック

USBハブを使用する場合は、USBハブをパソコンに先に取り付けてから、USB対応機器のプラグをUSBハブのコネクタに差し込んでください。

USB対応機器を使用するときの注意

- ・ USBコネクタの抜き差しは3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBデバイスが正常に認識されていないときは、一度USBコネクタからプラグを抜いて、もう一度差し込んでください。
- ・ 省電力状態のときや省電力状態に移行中、復帰中はUSBコネクタの抜き差しをしないでください。

USB対応機器を取り外す


画面右下の通知領域にが表示されている場合は、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント」(p.65)をご覧ください。正しい手順で取り外してください。が表示されていない場合は、そのまま取り外せます。

USBカメラ

USBカメラが添付されているモデルでは、USBカメラでテレビ電話を楽しめます。「USB対応機器を取り付ける」(p.67)をご覧ください、パソコンにUSBカメラを取り付けてください。



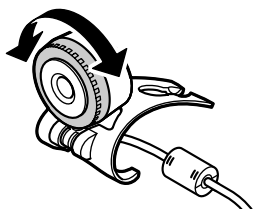
参照

テレビ電話について  「ばさガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 「Windows Messenger」

USBカメラを調整する

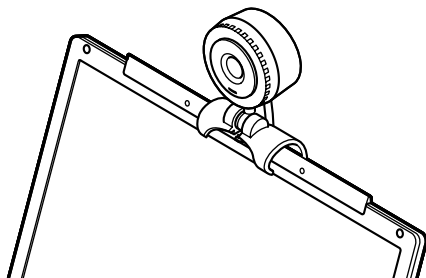
USBカメラのピントなどの調整は、「Windowsムービーメーカー」を使います。

- 1 「Windowsムービーメーカー」を起動する
- 2 「ファイル」 「録画/録音」をクリックする
USBカメラで撮影した映像が表示されます。
- 3 映像がぼやけている場合は、ピントリングを回して調整する



USBカメラを設置する

USBカメラは、机などの上に置いたり、液晶ディスプレイに取り付けたりできます。液晶ディスプレイに取り付けるときは、図のようにUSBカメラの脚部を液晶ディスプレイに掛けてください。



IEEE 1394コネクタ

IEEE 1394コネクタについて

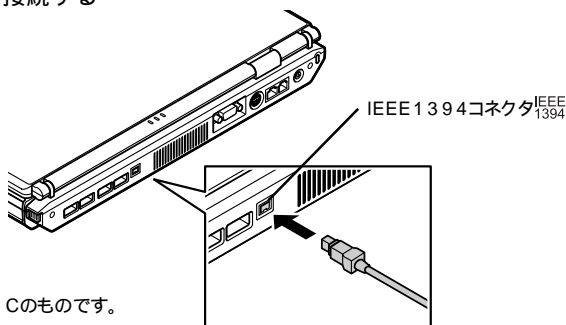
このパソコンにはIEEE 1394コネクタが搭載されています。
IEEE 1394に対応したデジタルビデオカメラや外付け用ハードディスクなどの周辺機器を取り付けることができます。

IEEE 1394対応機器の取り付け方と取り外し方

IEEE 1394対応機器を取り付ける

このパソコンとIEEE 1394対応機器を接続するには、別売のIEEE 1394ケーブルの4ピン用が必要です。

- 1 IEEE 1394ケーブルのプラグを、向きに注意してパソコンのIEEE 1394コネクタ(IEEE 1394)に接続する



イラストはLaVie Cのものです。

- 2 IEEE 1394ケーブルのもう一方のプラグを、取り付ける機器のIEEE 1394コネクタに接続する



機器によってはIEEE 1394コネクタをDV端子と呼ぶこともあります。



デジタルビデオカメラから画像を取り込む、編集する

IEEE 1394コネクタを使ってデジタルビデオカメラなどのデジタルビデオ機器を取り付けると、パソコンへの映像の取り込みや取り込んだ映像の編集、デジタルビデオ機器への出力ができます。

チェック

お客様が録画、録音したものは個人で楽しむ場合を除き、著作権法上、著作権者に無断で使用できません。

参照

- ・映像の取り込み、編集、デジタルビデオ機器への出力 VideoStudioのオンラインヘルプ、または  ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 「VideoStudio」
- ・映像の再生  ばそガイド」 「アプリケーションの紹介と説明」 「50音別目次」 「WinDVD 4」、または「WinDVD 4」のヘルプ

パソコン同士を接続する

IEEE 1394ケーブルでパソコン同士を接続すると、パソコン間でプリンタやファイルの共有や、データの移動ができるようになります。

接続にはホームネットワークの設定が必要になります。ホームネットワークの設定は、「スタート」 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット接続」 「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックして、表示された「ネットワーク セットアップ ウィザード」で行ってください。

IEEE 1394対応機器を取り外す

IEEE 1394対応機器の取り外しは、「周辺機器を使用するときのポイント」の「周辺機器の取り付け / 取り外しのポイント」(p.65)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

PCカードスロット

このパソコンではPC Card Standardに準拠したPCカードを使うことができます。

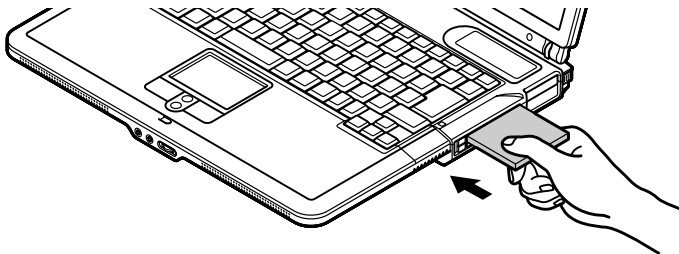
PCカードのセットのしかたと取り出し方

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・ PCカードをセットする / 取り出す際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ 休止状態またはスタンバイ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。
- ・ アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

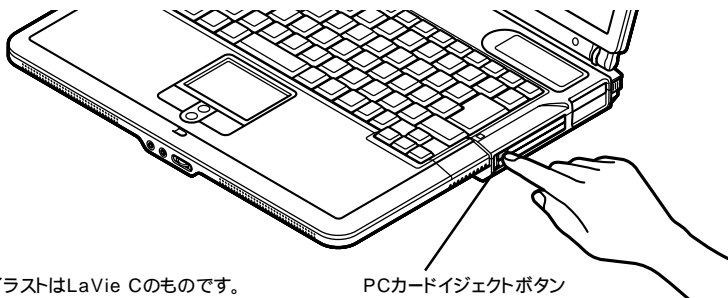
PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、PCカードスロットにまっすぐ差し込んでください。



イラストはLaVie Cのものです。

PCカードを取り出す

- 1 「周辺機器の取り付け/取り外しのポイント」(p.65)をご覧ください、周辺機器を取り外す準備を行う
- 2 PCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前に飛び出します。



- 3 もう一度、イジェクトボタンをカチッと音がするまで押す
PCカードが少し飛び出します。
- 4 PCカードをまっすぐ引き抜く

PCカードを使用するときの注意

- ・ PCカードは精密にできています。PCカードやPCカードスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
 - 濡らさない
 - 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
 - ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
 - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使えません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ CardBus対応PCカードとATAカードなどの通常のPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)を同時に使用しているときに、Windowsの動作がおかしくなる場合があります。その場合は、カードをセットするスロットを入れ替えてください。

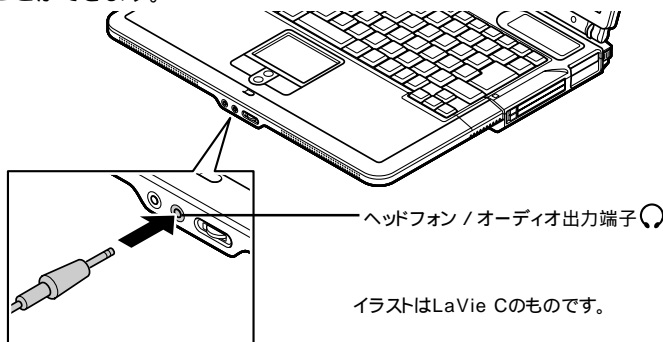
サウンド入出力端子

サウンド入出力端子に機器を接続する前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。

ヘッドフォン / オーディオ出力端子

ヘッドフォンやオーディオ機器を接続する

このパソコンには、ヘッドフォン / オーディオ出力端子 (🔊) が用意されています。ヘッドフォン / オーディオ出力端子には、市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続することができます。



🔍 チェック

- ・ このパソコンのヘッドフォン / オーディオ出力端子には、ステレオミニプラグが接続できます。ステレオミニプラグ以外の端子の場合は変換プラグ等が必要になります。
- ・ ヘッドフォンやオーディオ機器を取り付ける場合は、このパソコンと機器の音量を最小にして、取り付け後に音量を調整してください。

DolbyHeadphone機能を使う

このパソコンには、DolbyHeadphone機能が搭載されています。ヘッドフォン / オーディオ出力端子にヘッドフォンを接続すると、DVD-Videoディスクを臨場感のあるサウンドで楽しめます。

Dolby、ドルビー、Pro LogicおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
非公開機密著作物。著作権1992-1999年、ドルビーラボラトリーズ。不許複製



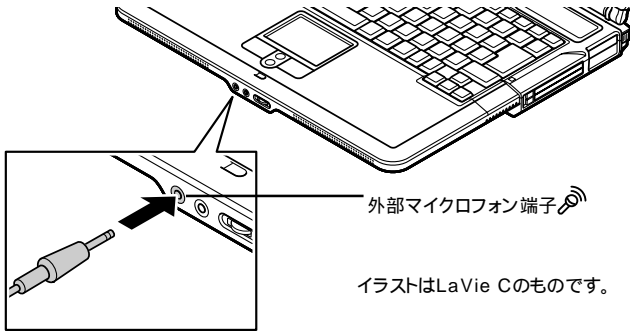
参照

DolbyHeadphone機能の使い方 「WinDVD 4」のヘルプ

外部マイクロフォン端子

マイクロフォンを接続する

このパソコンには、外部マイクロフォン端子(🎧)が用意されています。外部マイクロフォン端子には市販のミニプラグ付きマイクロフォンを接続することができます。




音量を調節する

マイクロフォンからの入力音量は、Windowsの「ボリュームコントロール」で調整します。



参照

ボリュームコントロールの使い方  「パソコンの設定」「サウンドの設定」「サウンドの設定」

ヘッドフォンマイク

ステレオヘッドフォンマイク添付モデルまたはモノラルヘッドフォンマイク添付モデルでは、パソコンにヘッドフォンマイクを接続してインターネット電話をかけることができます。

ヘッドフォンマイクを接続する

- 1 ヘッドフォンマイクの黒いプラグをヘッドフォン/オーディオ出力端子(🎧)に接続する
- 2 ヘッドフォンマイクの桃色のプラグを外部マイクロフォン端子(🎧)に接続する

外部映像出力端子

このパソコンと市販のディスプレイやテレビを接続して、大きな画面に表示させて使ったり、DVD-Videoを大画面で楽しむときなどに、この端子を使います。

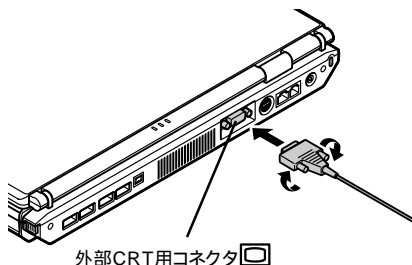
外部CRT用コネクタ

外部CRT用コネクタ(□)には、別売の外部ディスプレイやプロジェクタなどを接続できます。

より大きな画面に表示させてパソコンを使ったり、プレゼンテーションなどに活用することができます。

外部CRT用コネクタに接続する

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 ディスプレイ用ケーブルで、外部CRT用コネクタ(□)と外部ディスプレイやプロジェクタを接続する
詳しい接続については、外部ディスプレイやプロジェクタのマニュアルをご覧ください。



イラストはLaVie Cのものです。

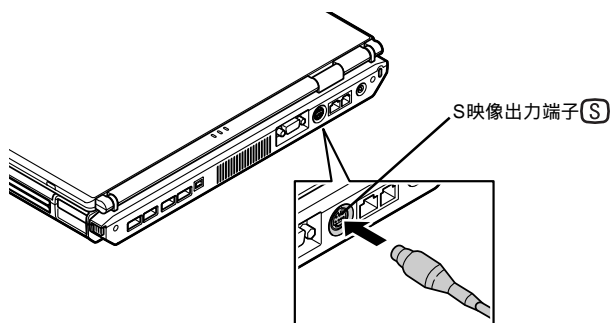
S映像出力端子

S映像出力端子(S)には、S映像入力端子またはビデオ入力端子付きのテレビを取り付けることができます。

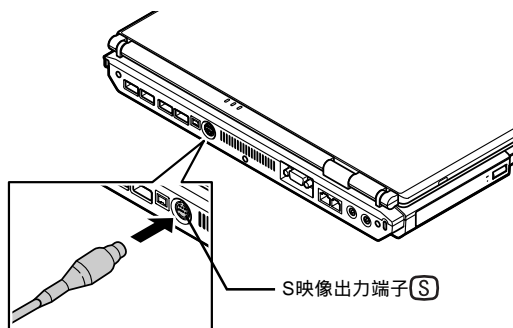
S映像入力端子付きのテレビと接続する

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 市販のSビデオケーブルで、S映像出力端子(S)とテレビのS映像入力端子を接続する

・LaVie Cの場合



・LaVie Tの場合



表示するディスプレイを切り替える

外部ディスプレイやテレビなどが接続されている場合は、次の方法で画面を表示するディスプレイを切り替えることができます。

キーボードで切り替える

【Fn】を押したまま【F3】を押すごとに、「液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示」「テレビ」「液晶ディスプレイ」「外部ディスプレイ」の順で表示するディスプレイが切り替わります。



チェック

複数のディスプレイに表示しているときにこの操作を行うと、設定が解除されます。

コントロールパネルで切り替える

コントロールパネルで画面の出力先を切り替えることができます。



参照

画面の出力先の切り替え 『ばそガイド』 『パソコンの設定』 『画面の設定』 『画面の設定』

複数のディスプレイに同時表示する

同じ画面を2つのディスプレイに表示する

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの両方に同じ画面を表示することができます。



参照

同じ画面を2つのディスプレイに表示する 『ばそガイド』 『パソコンの設定』 『画面の設定』 『画面の設定』

デュアルディスプレイ機能

パソコンに接続した外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイの2つのディスプレイを使って、1つの大きな画面を表示することができる機能です。外部ディスプレイと、パソコンの液晶ディスプレイを連続した1つの画面として使えるので、表示できる範囲が大きくなります。



参照

デュアルディスプレイ機能を使う 『ばそガイド』 『パソコンの設定』 『画面の設定』 『画面の設定』

メモリスロット

メモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAMボードをメモリスロットに取り付けます。

このパソコンで使える増設RAMボード

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M035	128Mバイト
PK-UG-M036	256Mバイト
PK-UG-M037	512Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- ・ 増設RAMボードの取り付け / 取り外しを行う際は、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ・ 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

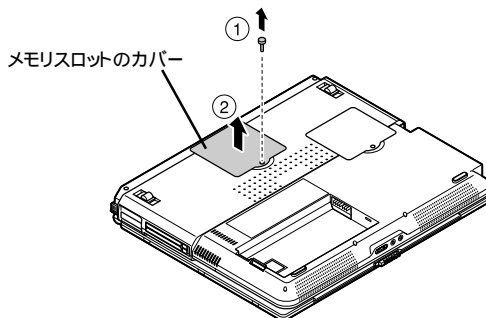
増設RAMボードの取り付け方と取り外し方

増設RAMボードを取り付ける

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

4 バッテリーパックを取り外す(p.37)

5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す

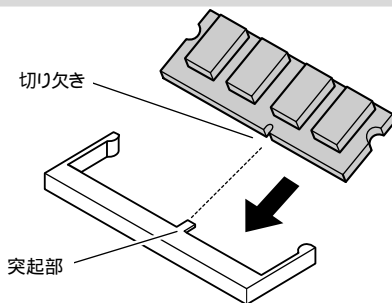


イラストはLaVie Cのものです。

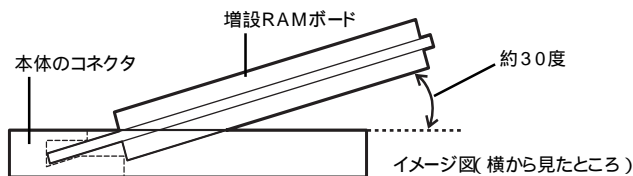
- 6 増設RAMボードの切り欠き部分とコネクタの突起部を合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する。増設RAMボードが奥まで挿入できている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

チェック

増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができません。間違った向きのまま無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが破損する原因となりますので注意してください。



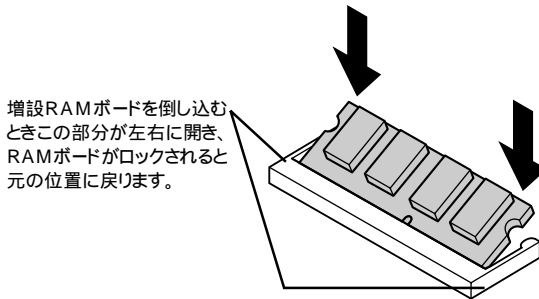
実物はイラストと多少異なる場合があります



🔍 チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

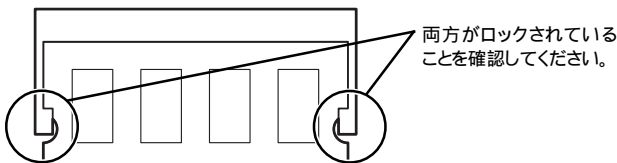
7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く押し込む



8 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する 正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。


🔍 チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



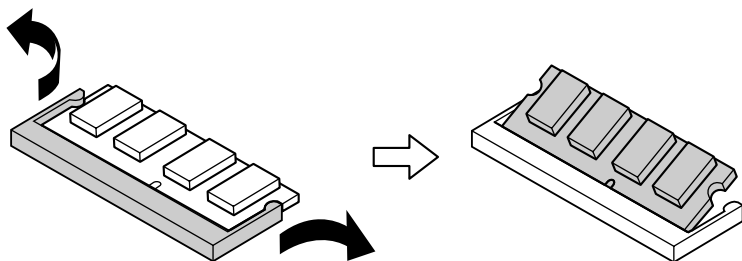
9 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

10 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、「ばそガイド」-「パソコンの情報」でメモリ容量を確認してください。

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける」(p.78)の手順1～5を行い、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。



- 3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く
- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

P A R T

3

付 録

パソコンやデータを守る

このパソコンの不正使用、パソコン本体とデータの盗難、またはパソコンの起動に必要なファイルへのウイルス感染の防止方法を説明します。

パスワード

パソコンにパスワードを設定することで、BIOSセットアップユーティリティを起動するときにはパスワードの入力が必要になり、入力したパスワードによって設定可能な項目が制限されます。

また、パソコンの電源を入れるときにパスワードの入力が必要な設定にすると、パソコンが不正に使用されることを防げます。

チェック

- ・ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えて、人目に付かないところに保管しておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、NEC121コンタクトセンターなどにパソコンの修理を依頼される際には、パスワード解除しておいてください。

パスワードの種類

スーパーバイザパスワード


管理者用のパスワードです。スーパーバイザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動すると、すべての項目が設定可能になります。

ユーザパスワード

使用者用のパスワードです。ユーザパスワードを設定するには、スーパーバイザパスワードが設定されている必要があります。ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定できる項目が制限されます。

パスワードの設定をする

パスワードの設定は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

設定方法については、 「ばそガイド」 「パソコンの設定」 「ハードウェア情報」 「BIOS設定」をご覧ください。

パスワードを設定しているときの電源の入れ方

パソコン起動時にパスワードの入力が必要な設定にしているときは、次の手順で電源を入れてください。

1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力してください。[_]

2 設定したパスワードを入力し、【Enter】を押す

正しいパスワードを入力すると、Windowsが起動します。

🔍 チェック

- ・ 間違ったパスワードを入力すると警告が表示されます。3回間違ったパスワードを入力すると、パスワードの入力ができなくなります。その場合は、一度パソコンの電源を切って、手順1からやりなおしてください。
- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合は、どちらのパスワードを入力してもかまいません。

盗難防止用ロック

このパソコンの盗難防止用ロック(🔒) (p.3、p.6)に別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を取り付け、盗難を防ぐことができます。詳しくは、セキュリティケーブルのマニュアルをご覧ください。

🔍 チェック

当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)はこのパソコンでは使用できません。

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

パソコンの電源を入れたときに、最初に読み込むハードディスクの部分をハードディスク起動セクタといいます。

ハードディスク起動セクタへの書き込みを禁止することで、パソコンの起動に必要なファイルをウイルスの感染から防ぐことができます。

ハードディスク起動セクタへの書き込み禁止の設定については、📖「**パソコンガイド**」の「**パソコンの設定**」の「**ハードウェア情報**」の「**BIOS設定**」をご覧ください。

📌 メモ

ウイルス対策については、📖「**パソコンガイド**」の「**ウイルスとトラブル予防**」もご覧ください。

BIOSセットアップユーティリティ

BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティの起動

- 1 パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す
BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。



BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして、【F2】を押す間隔を変えてください。

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

操作はキーボードで行います。

設定を変更する

- ・【 **X** 】でメニューを選び、【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【F5 **X** F6】で変更します。

設定の変更を保存する

「終了」メニューの「変更を保存する」を選びます。変更した設定内容が保存されます。

設定の変更を取り消す

「終了」メニューの「変更を取り消す」を選びます。各設定項目の設定内容を最後に保存した値に戻します。

購入時の値に戻す



購入時の値に戻しても、パスワードの設定は変更されません。

- 1 キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

- 3 キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
購入時の値が設定され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

BIOSセットアップユーティリティの終了

変更を保存して終了する

- 1 【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定内容が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

変更を保存せずに終了する

「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選びます。設定内容を最後に保存した値に戻して、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

本体機能一覧

LC950 / LC900

型名	LC950/4E	LC900/4D	
型番	PC-LC9504E	PC-LC9004D	
CPU	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 2GHz (拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー搭載) ¹	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.80GHz (拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー搭載) ¹	
内蔵キャッシュメモリ	12K μ 命令実行トレースキャッシュ ² /8KBデータキャッシュ		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準512Mバイト(メモリバス266MHz)	標準256Mバイト(メモリバス266MHz)
		最大	1,024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)
	ビデオRAM	16Mバイト	
表示機能	表示素子 ³	15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(UXGA)	
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色/1,677万色)、 1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色)、1,600×1,200ドット(65,536色/1,677万色)	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色/1,677万色)、 1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色)、1,600×1,200ドット(65,536色/1,677万色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/ 11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(10BASE-TX/10BASE-T)	
	ワイヤレスLAN	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12 ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・ 右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	

型名	LC950/4E	LC900/4D	
型番	PC-LC9504E	PC-LC9004D	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵	
	ハードディスク ⁴	約60Gバイト	
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁵	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大24倍速(CD-R)、書き換え最大10倍速(CD-RW) ⁶	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)		
	サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)、 マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、 ライン出力レベル1Vrms	
ヘッドフォンマイク	モノラルヘッドフォンマイク添付		
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	デュアルメモリーアダプタ添付		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ⁷ ⁸	ニッケル水素バッテリーの場合 約1.5時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約2.4時間(最大2.4時間)		
バッテリー充電時間 ⁸ (オン/オフ時)	ニッケル水素バッテリーの場合 標準約2.5 / 2.3時間、リチウムイオンバッテリーの場合 標準約3.1 / 2.9時間(最大3.1 / 2.9時間)		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) / リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁹ 、またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ¹⁰)		
消費電力	約26W(内蔵オプション最大接続時約60W)	約23W(内蔵オプション最大接続時約60W)	
温湿度条件	5 ~ 35、20 ~ 80% ¹¹ (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)		
質量 ⁸	約3.6kg		

1: 設定は、「スタート」、「コントロールパネル」、「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。

2: 最大12,000のデコード済みマイクロ命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。

3: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

4: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイトと認識されます。

5: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。

6: 1 ~ 4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。

7: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。

8: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

9: バッテリーパックは消耗品です。

10: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

11: 18 ~ 25、45 ~ 75%での使用を推奨。

LC700 / LC500

型名	LC700/4D	LC500/4D	
型番	PC-LC7004D	PC-LC5004D	
CPU	インテル® Pentium® 4 プロセッサ 1.50C GHz		
内蔵キャッシュメモリ	12K μ 命令実行トレースキャッシュ ¹ /8KBデータキャッシュ		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	標準256Mバイト(メモリバス266MHz)	
		最大	1,024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)
ビデオRAM	16Mバイト	8Mバイト	
表示機能	表示素子 ²	15型 高輝度 広視野角 ハイレゾTFTカラー液晶(SXGA+)	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット (65,536色/1,677万色)、1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色) ³ 、1,400×1,050ドット(65,536色/1,677万色) ⁴ 、1,600× 1,200ドット(65,536色/1,677万色) ⁵	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色/1,677万色)、 1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色)、1,600×1,200ドット(65,536色/1,677万色)	
	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載	
サウンド機能	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/ 11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12 ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・ 右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	

型名	LC700/4D	LC500/4D	
型番	PC-LC7004D	PC-LC5004D	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵	
	ハードディスク ⁶	約60Gバイト	約40Gバイト
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁷	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大24倍速(CD-R)、書き換え最大10倍速(CD-RW) ⁸	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)		
サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)、マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、ライン出力レベル1Vrms		
ヘッドフォンマイク	モノラルヘッドフォンマイク添付		
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	デュアルメモリアダプタ添付	「インナーシートホルダー」が、取り付けられています。	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ⁹ ¹⁰	ニッケル水素バッテリーの場合 約1.2時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約2.1時間(最大2.1時間)		
バッテリー充電時間 ¹⁰ (オン/オフ時)	ニッケル水素バッテリーの場合 標準約2.5 / 2.3時間、リチウムイオンバッテリーの場合 標準約3.1 / 2.9時間(最大3.1 / 2.9時間)		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh)/リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ¹¹ 、またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ¹²)		
消費電力	約23W(内蔵オプション最大接続時 約60W)		
温湿度条件	5 ~ 35、20 ~ 80% ¹³ (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)		
質量 ¹⁰	約3.6kg		

1: 最大12,000のデコード済みマイク命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。

2: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。

3: LC500ではバーチャルスクリーン表示。

4: LC700のみ。

5: バーチャルスクリーン表示。

6: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイト、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイトと認識されます。

7: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。パワファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。

8: 1 ~ 4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。

9: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。

10: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

11: バッテリーパックは消耗品です。

12: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

13: 18 ~ 25、45 ~ 75%での使用を推奨。

LT700 / LT500

型名	LT700/4D		LT500/4D	
型番	PC-LT7004D		PC-LT5004D	
CPU	モバイル インテル®Pentium® 4 プロセッサ-M 2GHz(拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー搭載) ¹		インテル® Pentium® 4 プロセッサ 1.50C GHz	
内蔵キャッシュメモリ	12Kμ命令実行トレースキャッシュ ² /8KBデータキャッシュ			
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
	メインRAM	標準256Mバイト(メモリバス266MHz)		
		最大	1,024Mバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)	
ビデオRAM	32Mバイト			
表示機能	表示素子 ³	15型 高輝度 広視野角ハイレゾTFT	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA) カラー液晶(SXGA+)	
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ 7500 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色/1,677万色)、1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色) ⁴ 、1,400×1,050ドット(65,536色/1,677万色) ⁵ 、1,600×1,200ドット(65,536色/1,677万色) ⁶ 、1,920×1,440ドット(65,536色/1,677万色) ⁶		
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65,536色/1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色/1,677万色)、1,280×1,024ドット(65,536色/1,677万色)、1,600×1,200ドット(65,536色/1,677万色)、1,920×1,440ドット(65,536色/1,677万色)		
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載		
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応		
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])		
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ		
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド		
	DolbyHeadphone機能	サポート		
映像関連機能	MPEGボード	ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード内蔵		
	テレビチューナ	音声多重対応、受信チャンネル ⁷ :VHF(1~12ch)、UHF(13~62ch)		
	データ放送受信	地上波データ放送(ADAMS)、字幕放送		
	映像合成表示機能	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)、SmartVision 2.0使用時:240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能		
	高画質機能	タイムベースコレクタ、デジタルノイズリダクション		
	テレビ録画機能	SmartVision 2.0でMPEG2(高画質モード:720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード:720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード:352×480ドット(2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード:352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能		
最長録画時間	高画質モード:約10時間10分、標準画質モード:約20時間50分、長時間録画モード:約42時間10分			

型名	LT700/4D	LT500/4D	
型番	PC-LT7004D	PC-LT5004D	
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX/10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクション キー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)	
	リモコン	赤外線リモコン標準添付	
補助記憶装置	ハードディスク ⁸	約60Gバイト	
	DVD-R/RW ドライブ ⁹	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16 倍速(CD-R)/等速(DVD-R) ¹⁰ 、書き換え最大10倍速(CD-RW) ¹¹ /等速 (DVD-RW) ¹²	
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、 IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)		
	サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)、 マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、 ライン出力レベル1Vrms	
	映像関連	アンテナ入力(U/V混合)、75、小型同軸コネクタ(付属のTVアンテナ変換 ケーブルで同軸F型に変換) テレビチューナー内蔵MPEGエンコーダー側端子: ビデオ入力(S-Video×1、コンポジット×1)、ライン入力(RCAジャック)×2 (LおよびR)	
ヘッドフォンマイク	ステレオヘッドフォンマイク添付		
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	InfoAudio(8Mバイト SDメモリー カード添付)添付	「インナーシートホルダー」が取り付け られています	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売 の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ^{13 14}	ニッケル水素バッテリーの場合 約1.1時 間、リチウムイオンバッテリーの場合 約 1.7時間(最大約1.7時間)	ニッケル水素バッテリーの場合 約1.0時 間、リチウムイオンバッテリーの場合 約 1.7時間(最大約1.7時間)	
バッテリー充電時間 ¹⁴ (オン / オフ時)	ニッケル水素バッテリーの場合 約2.5 / 2.5時間、リチウムイオンバッテリーの場合 標準約3.1 / 2.9時間(最大約3.1 / 2.9時間)		

型名	LT700/4D	LT500/4D
型番	PC-LT7004D	PC-LT5004D
電源	ニッケル水素バッテリー(DC 9.6 V、3,800mAh)/リチウムイオンバッテリー(DC 14.4 V、3,800mAh) ¹⁵ 、またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ¹⁶)	
消費電力	約31W(内蔵オプション最大接続時約60W)	約30W(内蔵オプション最大接続時約60W)
温湿度条件	5～35、20～80% ¹⁷ (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)	
質量 ¹⁴	約3.7kg	

- 1: 設定は、「スタート」-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
- 2: 最大12,000のデコード済みマイクロ命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。
- 3: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 4: LT500ではバーチャルスクリーン表示。
- 5: LT700のみ。
- 6: バーチャルスクリーン表示。
- 7: 本製品は、CATV(ケーブルテレビ)の周波数にも対応しておりますが、CATV各社によりサービス内容に違いがあるため、接続に関してはご利用のCATV会社にご相談ください。
- 8: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイトと認識されます。
- 9: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。
- 10: DVD-Rは、DVD for General Ver2.0のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 11: 1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 12: DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 13: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 14: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 15: バッテリーパックは消耗品です。
- 16: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 17: 18～25、45～75%での使用を推奨。

LG20SS / LG18SS / LG15SS

の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

型名	LG20SS/UC	LG18SS/UC	LG15SS/GC	LG15SS/C
CPU	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 2GHz(拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジ搭載) ¹	モバイル インテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 1.80GHz(拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジ搭載) ¹	インテル® Pentium® 4 プロセッサ 1.50C GHz	
内蔵キャッシュメモリ	12K μ 命令実行トレースキャッシュ ² /8KBデータキャッシュ			
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
	メインRAM	256Mバイト / 512Mバイト / 1,024Mバイト(メモリバス266MHz)		
		最大	1,024Mバイト(512Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けた場合)	
	ビデオRAM	16Mバイト	8Mバイト	
表示機能	表示素子 ³	15型 高輝度 広視野角ハイレゾTFTカラー液晶(UXGA)	15型 高輝度 広視野角ハイレゾTFTカラー液晶(SXGA+)	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製 MOBILITY™ RADEON™ 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65,536色 / 1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色 / 1,677万色)、1,280×1,024ドット(65,536色 / 1,677万色) ⁴ 、1,400×1,050ドット(65,536色 / 1,677万色) ⁵ 、1,600×1,200ドット(65,536色 / 1,677万色) ^{4 6}		
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600ドット(65,536色 / 1,677万色)、1,024×768ドット(65,536色 / 1,677万色)、1,280×1,024ドット(65,536色 / 1,677万色)、1,600×1,200ドット(65,536色 / 1,677万色)		
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載		
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応		
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])		
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ		
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド		
	DolbyHeadphone機能	サポート		
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	ケーブル添付 / なし 携帯電話: 9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne: 14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル): 32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット): 32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)		
	LAN	LAN内蔵(100BASE TX / 10BASE T)		
	ワイヤレスLAN機能	2.4GHzワイヤレスLAN内蔵 / なし		

型名	LG20SS/UC	LG18SS/UC	LG15SS/GC	LG15SS/C
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
	NXパッド	標準装備(スクロールボタン付)		
	マウス	光センサーUSBマウス添付 / USBマウス添付 / なし		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ内蔵		
	ハードディスク ⁷	約60Gバイト / 約40Gバイト / 約30Gバイト		
	CD/DVDドライブ ^{8 9}	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD-R/RWドライブの場合 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速(CD-R) / 等速(DVD-R)¹⁰、書き換え最大10倍速(CD-RW)¹² / 等速(DVD-RW)¹¹ ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大24倍速(CD-R)、書き換え最大10倍速(CD-RW)¹² 		
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)			
サウンド関連	ヘッドフォン出力 / ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)、マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、ライン出力レベル1Vrms			
ヘッドフォンマイク / USBカメラ	モノラルヘッドフォンマイク+USBカメラ添付 / モノラルヘッドフォンマイク添付 / なし			
PCカードスロット	TYPE x2スロット(TYPE x1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応			
メディア用ポケット	「メモリースティック」用のマジックゲートメモリースティックアダプタ、「SDメモリーカード」用のSDメモリーカードアダプタ、「SDメモリーカード」・「メモリースティック」両用のデュアルメモリーアダプタ、InfoAudio(8MバイトSDメモリーカード添付)を選択可能(選択しない場合は「インナーシートホルダー」が取り付けられています)			
パワーマネジメント	自動または任意設定可能			
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)			
バッテリー駆動時間 ^{13 14}	LG20SS、LG18SS: ニッケル水素バッテリーの場合 標準約1.5時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約2.4時間(最大約2.4時間) LG15SS: ニッケル水素バッテリーの場合 標準約1.2時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約2.1時間(最大約2.1時間)			
バッテリー充電時間 ¹⁴ (オン / オフ時)	ニッケル水素バッテリーの場合 標準約2.5 / 2.3時間、リチウムイオンバッテリーの場合 標準約3.1 / 2.9時間(最大約3.1 / 2.9時間)			

型名	LG20SS/UC	LG18SS/UC	LG15SS/GC	LG15SS/C
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh)/リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ¹⁵ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ¹⁶)			
消費電力	約26W(内蔵オプション最大接続時約60W)	約23W(内蔵オプション最大接続時	約60W)	
温湿度条件	5～35、20～80% ¹⁷ (ただし、結露しないこと)			
外形寸法	331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)			
質量 ¹⁴	約3.6kg			

- 1: 設定は、「スタート」、「コントロールパネル」、「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
- 2: 最大12,000のデコード済みマイクロ命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。
- 3: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 4: LG15SS/Cの場合、バーチャルスクリーン表示。
- 5: LG15SS/GCのみ。
- 6: LG15SS/GC、LG15SS/Cの場合、バーチャルスクリーン表示。
- 7: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイト、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
- 8: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
- 9: パワァアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。
- 10: DVD-Rは、DVD for General Ver2.0のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 11: DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 12: 1～4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 13: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 14: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 15: バッテリーパックは消耗品です。
- 16: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 17: 18～25、45～75%での使用を推奨。

LG20SE / LG18SE / LG15SE

の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

型名	LG20SE/GC	LG18SE/C	LG15SE/C
CPU	モバイルインテル® Pentium® 4 プロセッサ-M 2GHz(拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー搭載) ¹	モバイルインテル® Pentium® 4 プロセッサ-M1.80GHz(拡張版Intel SpeedStep® テクノロジー搭載) ¹	インテル® Pentium® 4 プロセッサ 1.50GHz
内蔵キャッシュメモリ	12Kμ命令実行トレースキャッシュ ² /8KBデータキャッシュ		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)		
メモリ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	256Mバイト / 512Mバイト / 1024Mバイト(メモリバス266MHz)	
		最大	1024Mバイト(512Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けた場合)
	ビデオRAM	32Mバイト	
表示機能	表示素子 ³	15型 高輝度 広視野角ハイレスTFTカラー液晶(SXGA+)	15型 高輝度 TFTカラー液晶(XGA)
	グラフィックアクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ 7500 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600(65,536色/1,667万色)、1,024×768(65,536色/1,667万色)、1,280×1,024(65,536色/1,667万色) ⁴ 、1,400×1,050(65,536色/1,667万色) ⁵ 、1,600×1,200(65,536色/1,667万色) ⁶ 、1,920×1,440(65,536色/1,667万色) ⁶	
	別売のCRTディスプレイ接続時	800×600(65,536色/1,667万色)、1,024×768(65,536色/1,667万色)、1,280×1,024(65,536色/1,667万色)、1,600×1,200(65,536色/1,667万色)、1,920×1,440(65,536色/1,667万色)	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1981A搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	
	DolbyHeadphone機能	サポート	
映像関連機能	MPEGボード	ハードウェアMPEG2リアルタイムエンコーダボード内蔵	
	テレビチューナ	音声多重対応、受信チャンネル ⁷ :VHF(1~12ch)、UHF(13~62ch)	
	データ放送受信	地上波データ放送(ADAMS)、字幕放送	
	映像合成表示機能	DirectShow®により任意のサイズで合成表示可能(全画面表示可能)、SmartVision 2.0使用時:240×180ドット以上(縦横比3:4固定)でサイズ変更可能	
	高画質機能	タイムベースコレクタ、デジタルノイズリダクション	
テレビ録画機能	SmartVision 2.0でMPEG2(高画質モード:720×480ドット(8Mbps CBR)、標準画質モード:720×480ドット(4Mbps VBR)、長時間録画モード:352×480ドット(2Mbps VBR))、MPEG1(ユーザ設定モード:352×240ドット(1.152Mbps CBR))の録画可能		

型名	LG20SE/GC	LG18SE/C	LG15SE/C
映像関連機能	最長録画時間 <ul style="list-style-type: none"> ・ハードディスク容量約60GBの場合 高画質モード:約10時間10分、標準画質モード:約20時間50分、長時間録画モード:約42時間10分 ・ハードディスク容量約40GBの場合 高画質モード:約4時間50分、標準画質モード:約10時間10分、長時間録画モード:約20時間50分 ・ハードディスク容量約30GBの場合 高画質モード:約2時間10分、標準画質モード:約4時間50分、長時間録画モード:約10時間10分 		
通信機能	モデム モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	FAX 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル ケーブル添付 / なし 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)		
	LAN LAN内蔵(10BASE-TX / 10BASE-T)		
	ワイヤレスLAN機能 2.4GHzワイヤレスLAN内蔵 / なし		
入力装置	キーボード 本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12 ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・ 右Altキー・右Ctrlキー付		
	NXパッド 標準装備(スクロールボタン付)		
	マウス 光センサーUSBマウス添付 / USBマウス添付 / なし		
	リモコン 赤外線リモコン標準添付		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ 外付け3.5型USBフロッピーディスクドライブ添付 / なし		
	ハードディスク ⁸ 約60Gバイト / 約40Gバイト / 約30Gバイト		
	CD/DVDドライブ ⁹ ・DVD-RAM/R/RWドライブの場合 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM) / 2倍速(DVD-RAM) ¹⁰ 、書き込み最大16倍速(CD-R) / 2倍速(DVD-R) ¹¹ 、書き換え最大4倍速(CD-RW) / 等速(DVD-RW) ¹² / 2倍速(DVD-RAM) ^{10 13} ・DVD-R/RWドライブの場合 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大16倍速(CD-R) / 等速(DVD-R) ¹¹ 、書き換え最大10倍速(CD-RW) ¹⁴ / 等速(DVD-RW) ¹² ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大24倍速(CD-R)、書き換え最大10倍速(CD-RW) ¹⁴		

型名	LG20SE/GC	LG18SE/C	LG15SE/C
インターフェイス	ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB2.0×4、ビデオ出力(S-Video×1)		
サウンド関連	ヘッドフォン出力/ライン出力(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)、マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、ライン出力レベル1Vrms		
映像関連	アンテナ入力(U/V混合)、75、小型同軸コネクタ(付属のTVアンテナ変換ケーブルで同軸F型に変換) テレビチューナー内蔵MPEGエンコーダー側端子: ビデオ入力(S-Video×1、コンポジット×1)、ライン入力(RCAジャック)×2(LおよびR)		
ヘッドフォンマイク/USBカメラ	ステレオヘッドフォンマイクおよびUSBカメラ添付/ステレオヘッドフォンマイク添付/なし		
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
メディア用ポケット	「メモリスティック」用のマジックゲートメモリスティックアダプタ、「SDメモリーカード」用のSDメモリーカードアダプタ、「SDメモリーカード」、「メモリスティック」両用のデュアルメモリーアダプタ、InfoAudio(8MバイトSDメモリーカード添付)を選択可能(選択しない場合は「インナーシートホルダー」が取り付けられています)		
パワーマネジメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売の盗難防止用ケーブルを使用)		
バッテリー駆動時間 ^{15 16}	LG20SE、LG18SE: ニッケル水素バッテリーの場合 約1.1時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約1.7時間(最大約1.7時間) LG15SE: ニッケル水素バッテリーの場合 約1.0時間、リチウムイオンバッテリーの場合 約1.7時間(最大約1.7時間)		
バッテリー充電時間 ¹⁶ (オン/オフ時)	ニッケル水素バッテリーの場合 標準約2.5/2.5時間、リチウムイオンバッテリーの場合 標準約3.1/2.9時間(最大約3.1/2.9時間)		
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh)/リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ¹⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ¹⁸)		
消費電力	約31W(内蔵オプション最大接続時 約60W)	約30W(内蔵オプション最大接続時 約60W)	
温湿度条件	5~35、20~80% ¹⁹ (ただし、結露しないこと)		
外形寸法	331(W)×275(D)×43.5(H)mm(突起部含まず)		
質量 ¹⁶	約3.7kg		

- 1: 設定は、「スタート」-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」の「電源オプション」で行います。
- 2: 最大12,000のデコード済みマイクロ命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。
- 3: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。
- 4: LG18SE、LG15SEの場合、バーチャルスクリーン表示。
- 5: LG20SEのみ。
- 6: バーチャルスクリーン表示。
- 7: 本製品は、CATV(ケーブルテレビ)の周波数にも対応しておりますが、CATV各社によりサービス内容に違いがあるため、接続に関してはご利用のCATV会社にご相談ください。
- 8: ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少く表示されることがあります。Windowsのシステムからは、「約60Gバイト」の場合は約55.87Gバイト、「約40Gバイト」の場合は約37.17Gバイト、「約30Gバイト」の場合は約27.83Gバイトと認識されます。
- 9: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。バッファアンダーラン防止機能内蔵。High Speed CD-RW媒体使用可能。
- 10: 片面4.7GバイトのDVD-RAMの速度。カートリッジは使用できません。カートリッジなし、またはメディア取り出し可能なカートリッジでメディアを取り出してお使いください。
- 11: DVD-Rは、DVD for General Ver2.0のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 12: DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1のメディアの書き込みのみに対応しています。
- 13: 片面2.6GバイトのDVD-RAMの書き換えには対応していません。
- 14: 1 ~ 4倍のCD-RW媒体使用時は最大4倍速になります。
- 15: JEITAバッテリー動作時間測定法(Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。詳しい測定条件については、<http://121ware.com>をご覧ください。
- 16: 時間や質量は、利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 17: バッテリーパックは消耗品です。
- 18: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。
- 19: 18 ~ 25 %、45 ~ 75%での使用を推奨。

通信機能一覧

内蔵FAXモデム

機能概要

項目	規格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM:14400/12000
	QAM:9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9~-15dBm / -15dBm
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹
	受信 56000/54666/52000/50666/49333/48000/46666/45333/ 44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/ 32000/30667/29333/28000bps ¹
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/ 42666/41333/40000/38667/37333/36000/34667/ 33333/32000/30667/29333/28000
	TCM:48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/ 19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps
	QAM:9600/4800/2400/1200bps
	DPSK:1200bps
	FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、『ばそガイド』、『パソコンの設定』、『ハードウェア情報』、『ATコマンド』をご覧ください。

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)
	トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話 / PHS接続機能


携帯電話 / PHS接続機能は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種類	項目	規格
PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS(DDIポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信)9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信) 64Kbps(パケット通信)

共通仕様

項目	規格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	AA

: ATコマンドについては、「ばそガイド」『パソコンの設定』「ハードウェア情報」『ATコマンド』をご覧ください。

内蔵LAN

規格概要

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時: 100Mbps 10BASE-T使用時: 10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時: UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時: UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX: 最大約200m / ステーション間 10BASE-T: 最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

2.4GHzワイヤレスLAN

2.4GHzワイヤレスLANは2.4GHzワイヤレスLANモデルのみの機能です。

項目	規格
データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替) ¹
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離	見通し約70m(アクセスポイントとの通信時) ²
使用無線チャンネル	1 ~ 11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4 ~ 2.4835GHz)
温湿度条件	温度: 5 ~ 35 湿度: 20 ~ 80%(結露無きこと)

1: IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。

2: 通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

索 引

索引

英字

2.4GHzワイヤレスLAN	50, 105
ADSL	47
BIOSセットアップユーティリティ	86
CATV	47
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	v, 3, 6, 15
CD/DVDドライブ	v, 15
CDの再生	18
DCコネクタ	3, 6
DolbyHeadphone	73
DVD-R/RWドライブ	v, 3, 6, 15
DVD-RAM/R/RWドライブ	v, 6, 15
DVD-Videoディスクの再生	18
【Fn】エフエヌキー)	12
IEEE1394コネクタ	3, 6, 69
InfoAudio	26
LAN	47, 105
LANコネクタ	3, 6, 48
NXパッド	2, 5, 8
PCカード	71
PCカードイジェクトボタン	2, 5, 72
PCカードスロット	2, 5, 71
PHS接続ケーブル	57
「SDメモリーカード」	28
SDメモリーカードアダプタ	26
S映像出力端子	3, 6, 76
S映像入力端子	6
USB	66
USBカメラ	68
USBコネクタ	3, 6, 66
VHF/UHFコネクタ	6

あ行

アクセスランプ(CD/DVDドライブ)....	16
アクセスランプ(本体).....	2, 5
イジェクトボタン(CD/DVDドライブ)	16
イジェクトボタン(フロッピーディスク)....	24
【インターネット】ボタン	13

映像入力端子	6
液晶ディスプレイ	2, 5, 30
音楽CDからのデジタル出力設定	60
音声入力端子	6
音量調節つまみ	2, 5, 60

か行

解像度	30
外部CRT用コネクタ	3, 6, 75
外部ディスプレイ	75
外部マイクロフォン端子	2, 5, 74
キーボード	2, 5, 10
輝度	30
キャップスロッキークランプ	2, 5
休止状態	40, 43
休止状態からの復帰	43
クリックボタン	8
携帯電話 / PHS接続機能	57, 104
携帯電話接続ケーブル	57

さ行

サウンド機能	60
サスペンド	40
周辺機器	62
周辺機器の取り外し	65
省電力機能	40
省電力状態	40
スーパーバイザパスワード	84
スクロールロッキークランプ	2, 5
スクロールボタン	8
スタンバイ状態	40, 42
スタンバイ状態からの復帰	43
スピーカ	2, 5
スリープ状態	40
増設RAMボード	78

た行

ディスプレイストレッチ機能	30
ディスプレイの切り替え	77
ディスプレイの同時表示	77

データ通信	59
デバイスドライバ	64
デバイス マネージャ	vi
デュアルディスプレイ機能	77
デュアルメモリアダプタ	26
テレビ	76
テレビ電話	68
電源回復(スタンバイ状態からの復帰)	49
電源スイッチ	2, 5
電源ランプ	2, 3, 5, 6, 32, 41
電話回線用モジュラーコネクタ	3, 6, 54
盗難防止用ロック	3, 6, 85
ドライバ	64

な行

ニューメリックロックキーランプ	2, 5
ネット簡単切替ツール	55, 58

は行

バーチャルスクリーン	31
ハードディスク起動セクタ へのウイルス感染防止	85
ハイパネーション	40
パスワード	84
バッテリーアンロック	4, 7, 38
バッテリー残量の確認	32
バッテリー充電ランプ	2, 3, 5, 6, 35
バッテリーの充電	34
バッテリーパック	4, 7, 37
バッテリーパックの交換	37
バッテリーリフレッシュ	35
パッド	8
ピープ音のオン/オフ	12
表示色	30
復帰	43
プラグ&プレイ機能	64
ブロードバンド	47
プロジェクト	75
フロッピーディスク アクセスランプ	2, 25

フロッピーディスク ドライブ	3, 23
ヘッドフォン/オーディオ 出力端子	2, 5, 73
ヘッドフォンマイク	74
ホットキー機能	12
ボリュームコントロール	60, 74

ま行

マジックゲート メモリースティック アダプタ	26
メディア用ポケット	2, 5, 26
メディア用ポケットイジェクト スイッチ	2, 5, 27
メール着信ランプ	2, 3, 5, 6
【メール】ボタン	13
メモリ	78
「メモリースティック」	28
メモリスロット	4, 7, 78
メモリ容量の確認	81
モデム	54, 102

や行

ユーザパスワード	84
----------	----

ら行


レジャーーム	40
--------	----

わ行

ワイヤレスランプ	2, 5, 52
ワンタッチスタートボタン	2, 5, 13

『パソコン機能ガイド』と合わせて使う

電子マニュアル『ぱそガイド』

「ぱそガイド」はパソコンの画面で見るマニュアル。パソコンに関する設定や、アプリケーションの使い方など、役立つ情報がつまっています。このマニュアルと合わせて使って、上手に情報を手に入れましょう。デスクトップにあるをダブルクリックして表示できます。

このパソコンの型名や製造番号、メモリの容量など、ハードウェアに関する詳しい情報を表示します。周辺機器を買うときは、画面を印刷して持っていても役に立ちます。

調べたいキーワードを入力して、「検索」をクリックします。

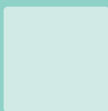
このパソコンに添付されている各アプリケーションの紹介、使い方を説明しています。

ネットワークの設定、省電力の設定など、パソコンに関する設定について説明しています。BIOSの情報などもここで。



サポート窓口についてはこちら。

周辺機器を接続したけどうまく動かない、設定がうまくできない... 困ったときはここを参考に。



LaVie

初版 2002年10月

NEC

P

853-810601-033-A

Printed in Japan

パソコン機能ガイド

